

千葉県八千代市

二重堀遺跡 h 地点

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

千葉県八千代市 二重堀遺跡 h 地点
－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2021
株式会社オカムラホーム・八千代市教育委員会

2021
株式会社オカムラホーム
八千代市教育委員会

千葉県八千代市

二重堀遺跡 h 地点

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2021

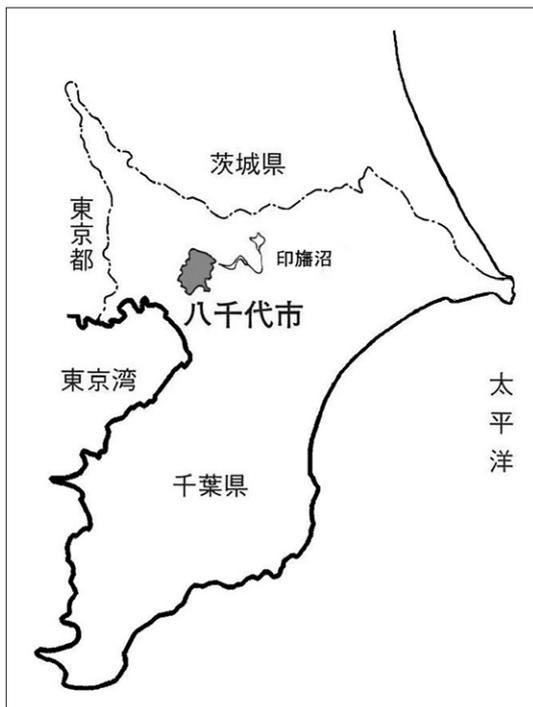
株式会社オカムラホーム
八千代市教育委員会

凡 例

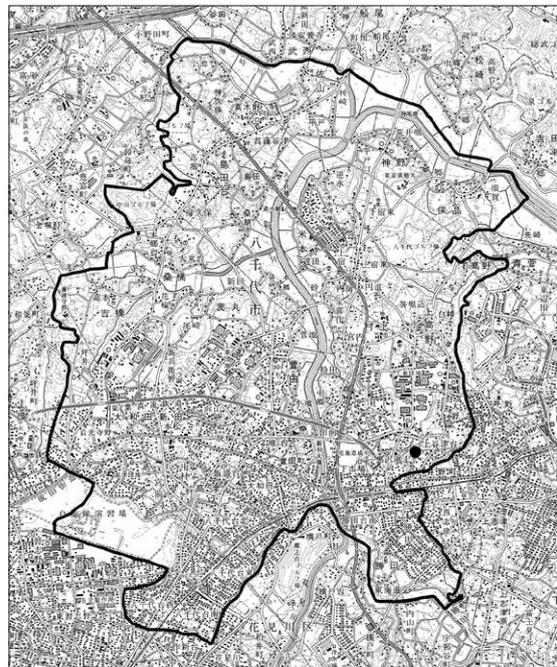
1. 本書は、八千代市教育委員会が令和2年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和2年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、宅地造成に伴うもので、事業者である株式会社オカムラホームの委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、二重堀遺跡、所在地は千葉県八千代市上高野字新林1208番1,1207番2である。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査	二重堀遺跡 h 地点として実施した。		
	期間	令和2年1月15日～令和2年2月10日	面積 449㎡/4339.75㎡
本調査	期間	令和2年7月13日～令和2年10月1日	面積 648㎡
本整理	期間	令和2年10月5日～令和3年3月31日	
5. 遺構No.は、数字と記号（土坑 P）の組み合わせで標記した。
6. 遺構・遺物の縮尺は、原則として下記のとおりである。

[遺構]	土坑	1/40	[遺物]	縄文土器	1/2
------	----	------	------	------	-----
7. 本文中（図示なし）とした出土遺物は小片のため図示できなかったものである。また、石器については原則写真図版により図示している。
8. 参考文献は第3章末にある。
9. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
10. 本書の図版作成は、調査補助員と多田、宮下が行い、第1章を宮下が、第2章、第3章を多田が執筆を担当し、宮下が編集を行った。
11. 本書の作成に際し、縄文土器について玉井庸弘氏より所見を賜った。記して感謝するしだいである。



八千代市の位置



二重堀遺跡の位置

(国土地理院発行5万分の1地形図に加筆・編集)

凡 例

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の概要…………… 1

第3節 遺跡の概要…………… 1

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代…………… 5

第2節 遺構外出土遺物……………24

第3章 成果と課題……………26

写真図版……………27

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 二重堀遺跡調査地点…………… 2

第2図 二重堀遺跡と周辺の遺跡…………… 3

第3図 大正時代の二重堀遺跡周辺…………… 3

第4図 二重堀遺跡h地点調査区及び遺構配置図
…………… 4

第5図 1区1P・2P, 2区1P・2P・8P
遺構・遺物実測図…………… 6

第6図 2区4P～7P遺構・遺物実測図…………… 7

第7図 2区9P～12P, 3区1P～4P・21P・
22P遺構・遺物実測図…………… 9

第8図 3区5P・6P・14P・15P・23P遺構
実測図……………12

第9図 3区7P～13P・16P遺構実測図……………13

第10図 3区17P～20P, 4区3P・4P・7P・
8P・10P～12P遺構実測図……………15

第11図 4区1P遺構実測図……………18

第12図 4区13P・15P～19P・28P遺構・遺物
実測図……………19

第13図 4区20P～27P, 5区1P・2P遺構・
遺物実測図……………21

第14図 5区3P～5P, 6区1P・3P遺構・
遺物実測図……………23

第15図 6区4P遺構実測図……………25

第16図 遺構外出土遺物実測図……………25

写真図版目次

図版1 遺構1 (調査区全景) ……………28

図版2 遺構2 (調査区全景・1区1P・2P・2区4P・5P) ……………29

図版3 遺構3 (2区6P・7P, 3区5-23P・11P, 4区1P・3-7P・10P・16P) ……………30

図版4 遺構4 (4区18P・28P・19P・20P・21P・26P・27P, 5区1P～5P) ……………31

図版5 遺構5 (6区1P・3P・4P)・遺物1 (1区1P, 2区4P・5P・7P, 3区1P・2P・4P・
10P) ……………32

図版6 遺物2 (3区14P, 4区13P, 5区2P・3P, 6区1P) ……………33

図版7 遺物3 (遺構外出土遺物) ……………34

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

令和元年8月29日付けで、地権者から上高野字新林の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡である二重堀遺跡の範囲内であることから、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計3791.8㎡について取扱いに係る協議を行った。その結果、地権者及び事業者である株式会社オカムラホーム 代表取締役 金子 保夫氏は工事を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年9月26日付で株式会社オカムラホーム 代表取締役 金子 保夫氏から、隣接地区を含めた土木工事の届が提出され、市教委は令和2年1月15日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、令和元年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。二重堀遺跡 h 地点として対象面積4339.75㎡のうち449㎡を調査した。その結果、発掘調査により竪穴建物跡2棟及び土坑14基を検出した。

本調査 確認調査の結果、698㎡について協議範囲として協議を重ね、事業者から令和2年4月22日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出され、市は同年5月28日付でこれを受託した。同年7月1日付で市と事業者間で本調査の委託契約を締結し、同月15日に市教委が本調査を開始した。

第2節 調査の概要

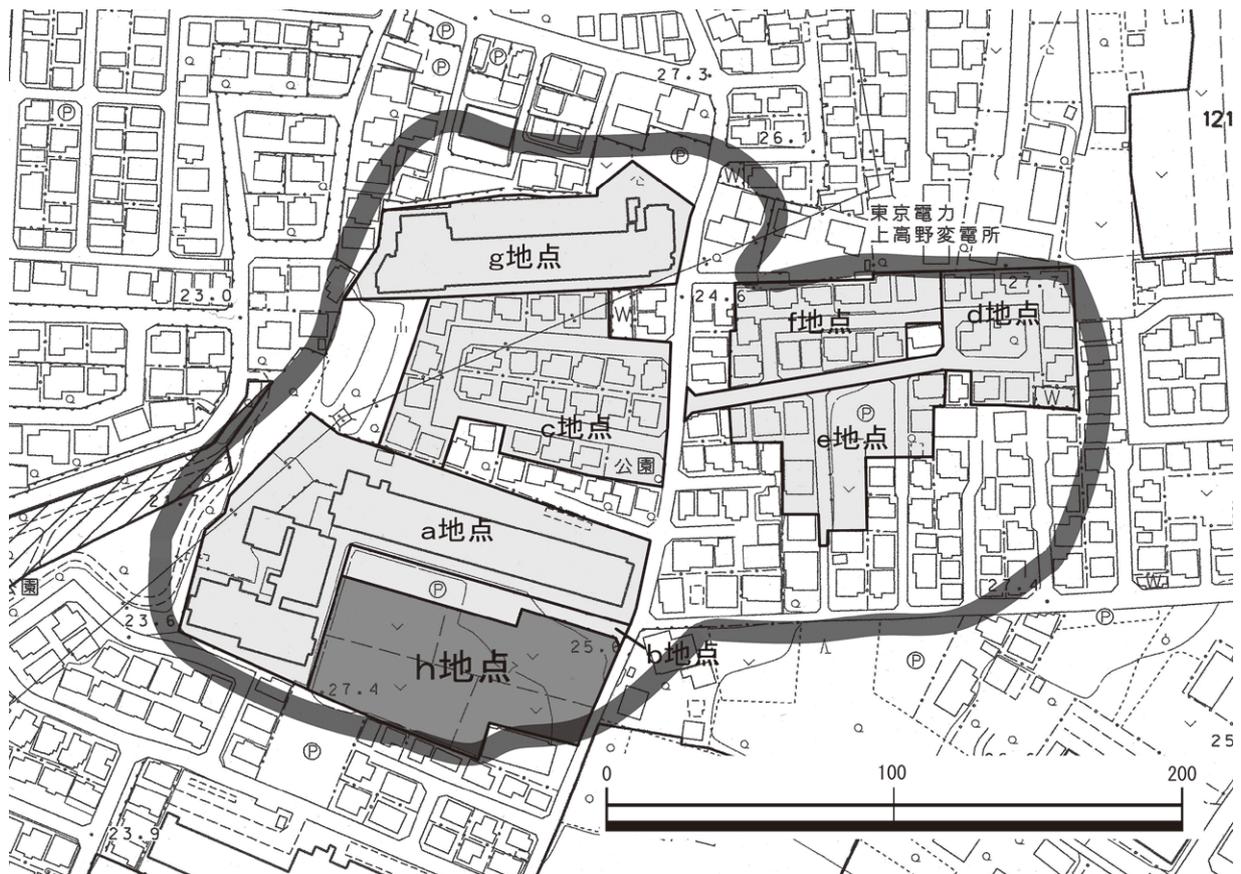
本調査は、遺構を検出した周囲698㎡を対象として行った。表土については重機により掘削し、適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は、7月10日機材搬入、環境整備。7月13日から15日にかけて重機による表土掘削。遺構確定の後7月20日より土坑等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い、随時写真撮影等により記録を行った。個別の遺構調査終了後に全体写真撮影を行い、9月30日より重機による埋戻しを開始。並行して機材の撤収を行い、10月1日に埋戻し及び機材撤収を完了し、調査を終了した。

第3節 白幡前遺跡の概要

遺跡の立地 二重堀遺跡は、市域の南東部の上高野地区に所在する。新川と小竹川に挟まれた台地のほぼ中央部で、新川に至る谷津（黒沢支谷）の最奥部、標高約24m～27mの台地上平坦部に位置する。

これまでの調査 市教委による調査として今回の h 地点の隣接地で、平成5（2001）年に遺 a 地点1,498㎡（本調査）、平成6年に b 地点832.25㎡が調査され、a 地点において縄文時代の竪穴状遺構1基と土坑35基。b 地点では縄文時代土坑2基が検出された。平成8年度に c 地点、d 地点において確認調査が行われ、c 地点において縄文土器の出土は見られるものの遺構は検出されず、d 地点においては次期不明の溝状遺構と土坑1基を検出したのみである。平成13年の e 地点においては縄文時代の炉穴4基、土坑4基、次期不明の溝状遺構1条が検出された。平成15年に行われた f 地点の確認調査では、中世以降の溝状遺構1条が検出され、平成16年の g 地点の確認調査では遺構は検出されなかった。

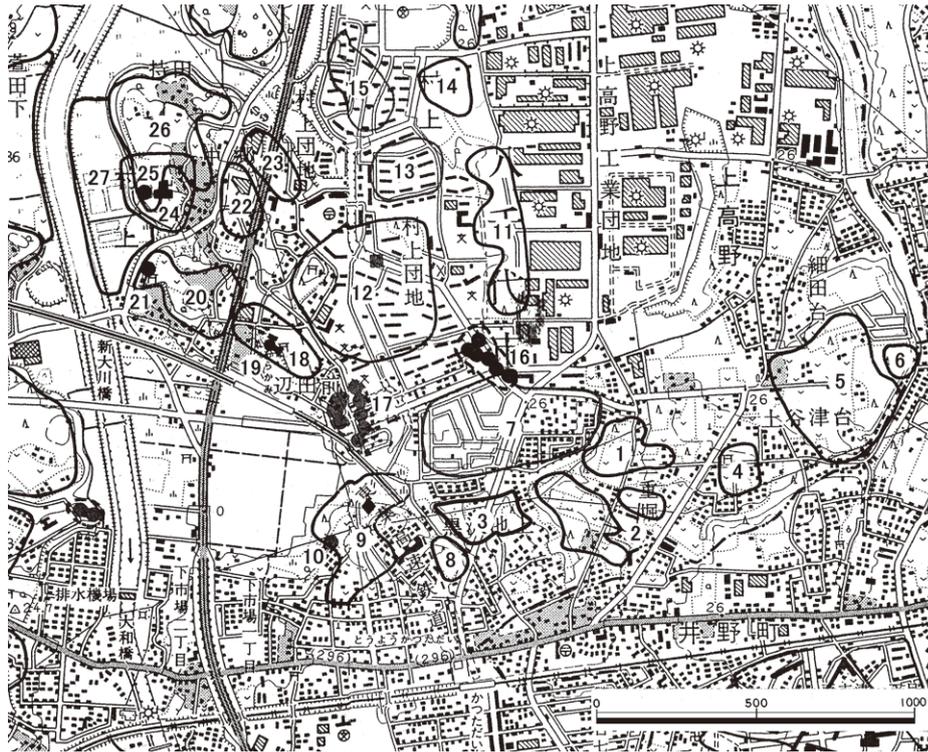


第1図 二重堀遺跡調査地点

周辺の遺跡 同じ黒沢支谷の南に立地する新林遺跡では9地点が調査され、陥穴や土坑を始めとした縄文時代の遺構・遺物が確認されている。特に、上高野地区の土地区画整理事業に伴い平成13年に行われた調査では、縄文時代の竪穴建物跡11棟、竪穴状遺構4棟、陥穴5基、炉穴3基、土坑109基が確認されている。同事業で新林遺跡の西に所在する黒沢池上遺跡も調査され、縄文時代の竪穴建物跡3棟、陥穴1基、土坑39基が検出されている。

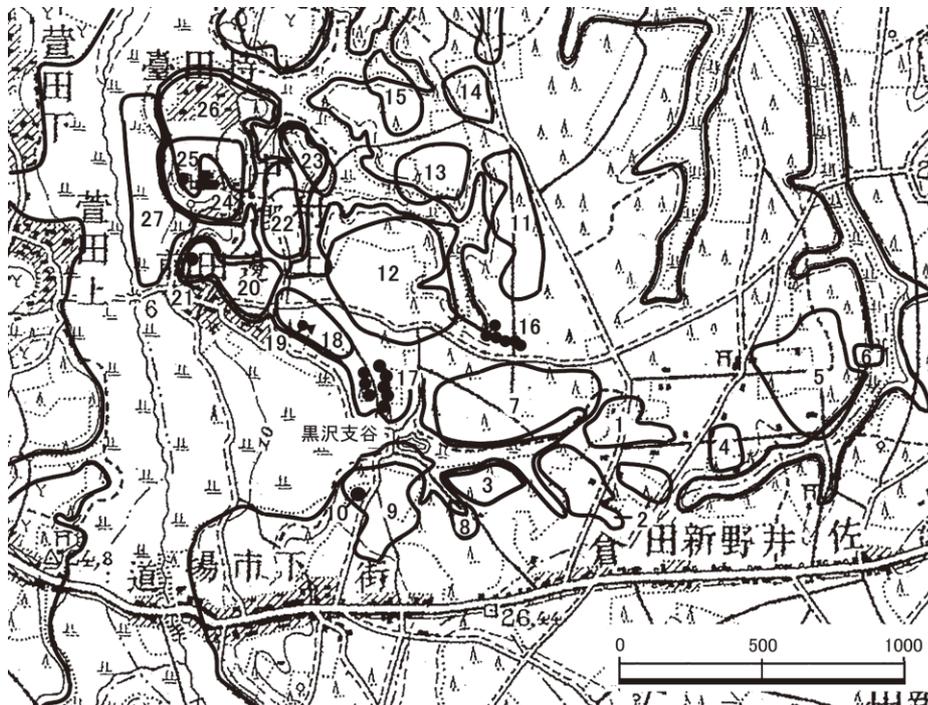
黒沢支谷の北側に位置する黒沢台遺跡では昭和49年11月から昭和50年6月にかけて7,355㎡を対象に確認調査が行われ、古墳1基を除き遺構は検出されず、少量の平安時代の土師器が出土したのみである。古墳は周溝を含めた規模が20mほどの方墳で、本調査が行われた結果、粘土で覆われた主体部を検出しているが、遺物は確認されていない。

二重堀遺跡の東、小竹川を東に臨む台地上に位置する稲荷前遺跡では4地点で調査が行われ、遺跡中央から西寄りのa地点で縄文時代の炉穴と奈良・平安時代の方形周溝状遺構が確認されている。上谷津台南遺跡では9地点で確認調査が行われ、遺跡の1/3程が調査されている。遺構は縄文時代の陥穴4基に時期不明の土坑2基に溝1条が検出されているのみで、稲荷前遺跡の調査と併せ、小竹川西岸の台地上は、比較的遺構が希薄な一帯となっている。



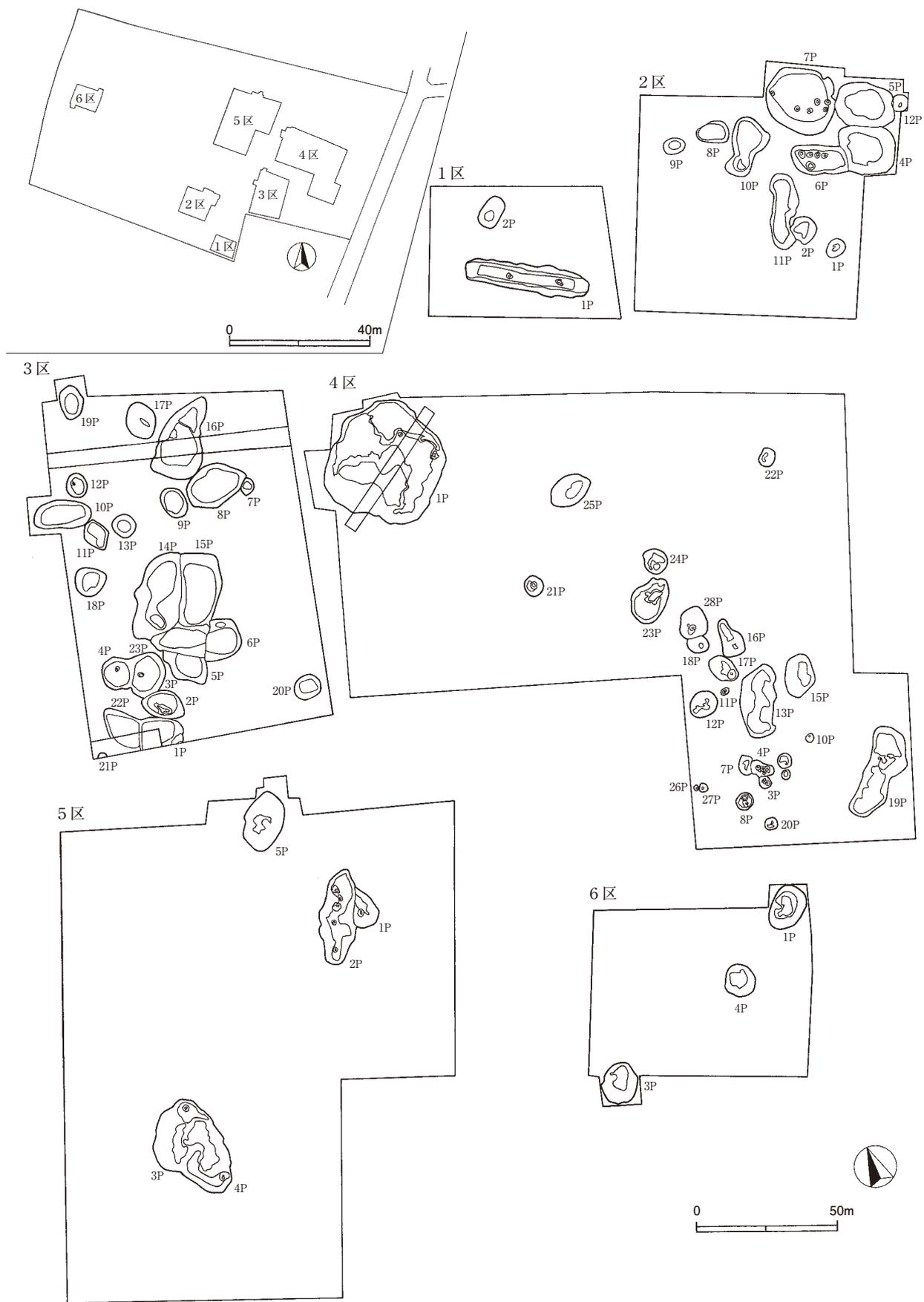
第2図 二重堀遺跡と周辺の遺跡

- 1 二重堀遺跡
- 2 新林遺跡
- 3 黒沢池上遺跡 (消滅)
- 4 稲荷前遺跡
- 5 上谷津台南遺跡
- 6 上谷津遺跡
- 7 黒沢台遺跡 (消滅)
- 8 台北側遺跡
- 9 沖塚遺跡
- 10 沖塚古墳 (消滅)
- 11 野路作遺跡
- 12 村上込ノ内遺跡
- 13 名主山遺跡 (消滅)
- 14 大塚南遺跡
- 15 村上向原遺跡 (消滅)
- 16 村上第1塚群
- 17 村上第2塚群 (消滅)
- 18 白筋遺跡
- 19 根上神社古墳
- 20 浅間内遺跡
- 21 浅間内古墳
- 22 殿内遺跡
- 23 境作遺跡
- 24 正覚院館跡
- 25 正覚院塚
- 26 持田遺跡
- 27 浅間下遺跡



第3図 大正時代の二重堀遺跡周辺 (国土地理院発行5万分の1を編集)

- 1 二重堀遺跡
- 2 新林遺跡
- 3 黒沢池上遺跡 (消滅)
- 4 稲荷前遺跡
- 5 上谷津台南遺跡
- 6 上谷津遺跡
- 7 黒沢台遺跡 (消滅)
- 8 台北側遺跡
- 9 沖塚遺跡
- 10 沖塚古墳 (消滅)
- 11 野路作遺跡
- 12 村上込ノ内遺跡
- 13 名主山遺跡 (消滅)
- 14 大塚南遺跡
- 15 村上向原遺跡 (消滅)
- 16 村上第1塚群
- 17 村上第2塚群 (消滅)
- 18 白筋遺跡
- 19 根上神社古墳
- 20 浅間内遺跡
- 21 浅間内古墳
- 22 殿内遺跡
- 23 境作遺跡
- 24 正覚院館跡
- 25 正覚院塚
- 26 持田遺跡
- 27 浅間下遺跡



第4図 二重堀遺跡h地点調査区及び遺構配置図

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代

1区

1P (第5図)

検出地区 1区南側。 **遺構** 長軸4.93m×短軸0.9mの非常に細長い楕円形で、深さ0.97m。底面はほぼ平坦で、浅い凹部が2ヶ所認められる。壁面は立ち上がり、底面から約0.5mのあたりで傾斜角が変わる。 **覆土** 11層に分層され、自然堆積である。上層からは須恵器や鉄器が検出され、後世の攪乱を受けている。 **遺物** 縄文土器（興津式）5点、石器1点、須恵器（坏）1点、鉄器2点が出土した。1～2は興津式土器の口縁部である。1は縦位の条線文を施文し、2は複合口縁（縦位条線帯）で条線文（山形・菱形文）を施文する。3は横長剥片で、石材は珪質頁岩か。 **所見** 遺構の形状や出土遺物から縄文時代前期の落とし穴と判断した。

2P (第5図)

検出地区 1区北西側。 **遺構** 長軸1.17m×短軸0.74mの楕円形で、深さ0.3m。底面はすり鉢状である。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構2区1P・2P等。

2区

1P (第5図)

検出地区 2区東側。 **遺構** 長軸1.5m×短軸1.15mの卵形で、深さ0.18m。底面はすり鉢状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

2P (第5図)

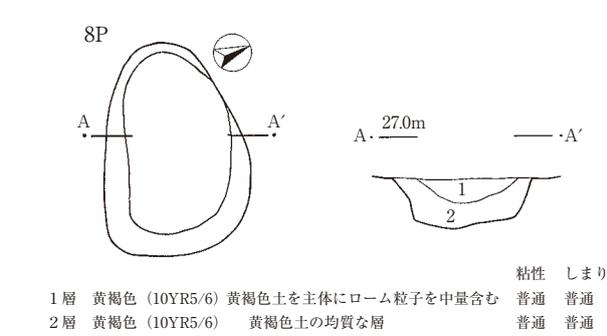
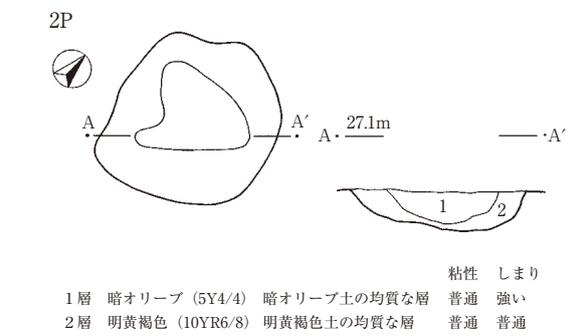
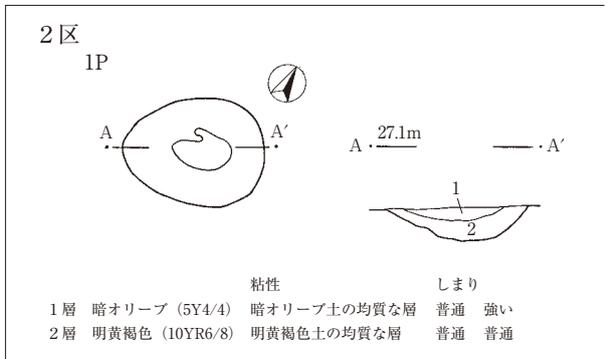
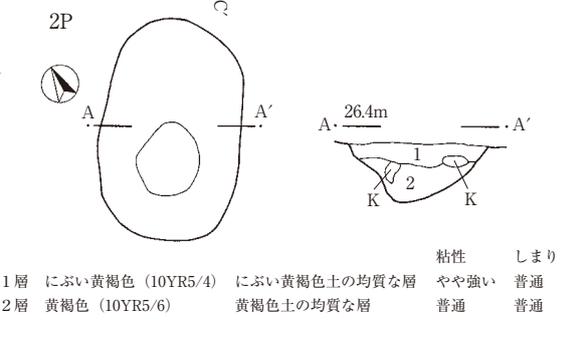
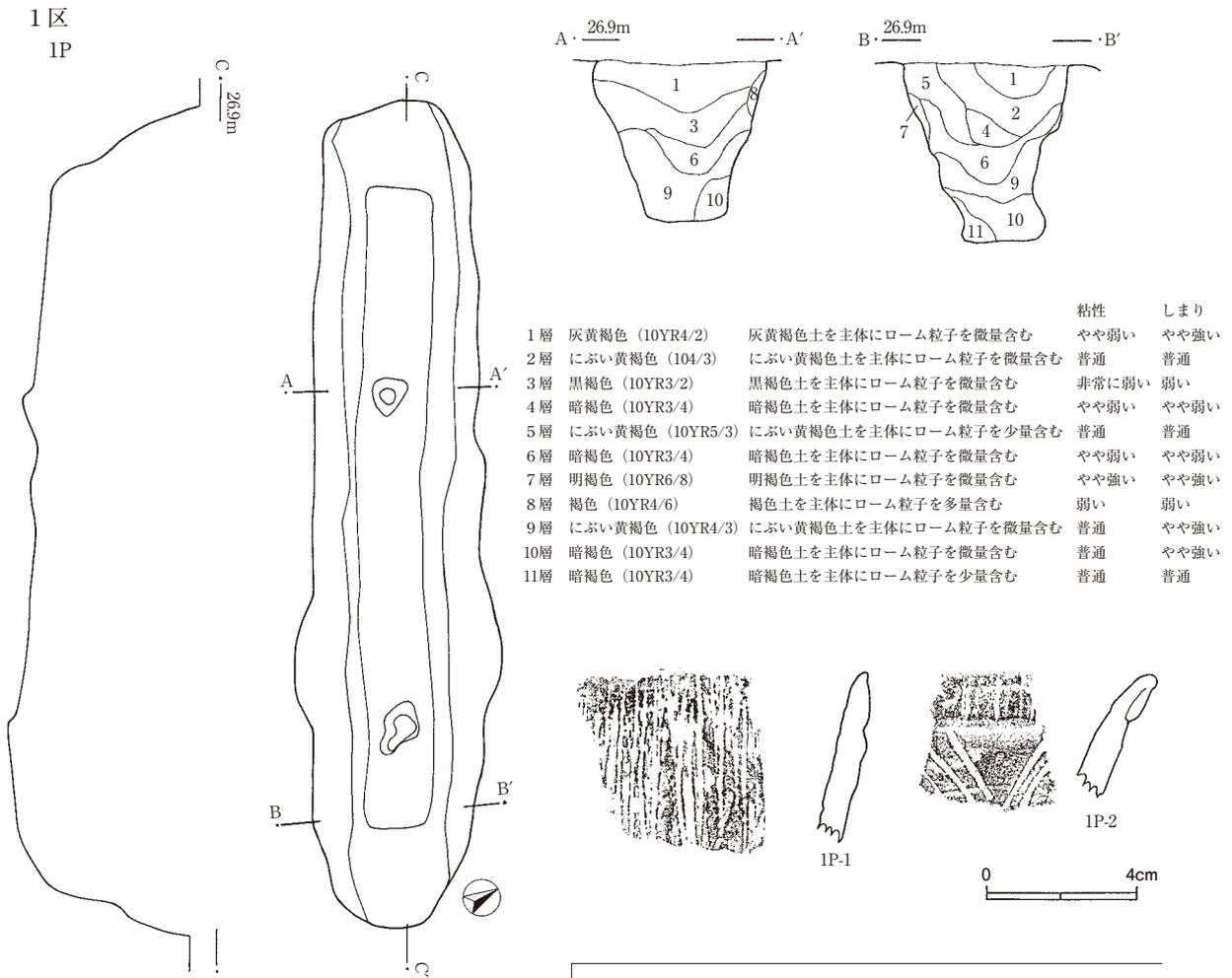
検出地区 2区中央部。11Pと接する。 **遺構** 南北2.03m×東西1.75mの不定形で、深さ0.21m。底面は平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

8P (第5図)

検出地区 2区北西側。 **遺構** 南北0.79m×東西1.11mの卵形で、深さ0.2m。底面は平坦である。壁面は急に立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

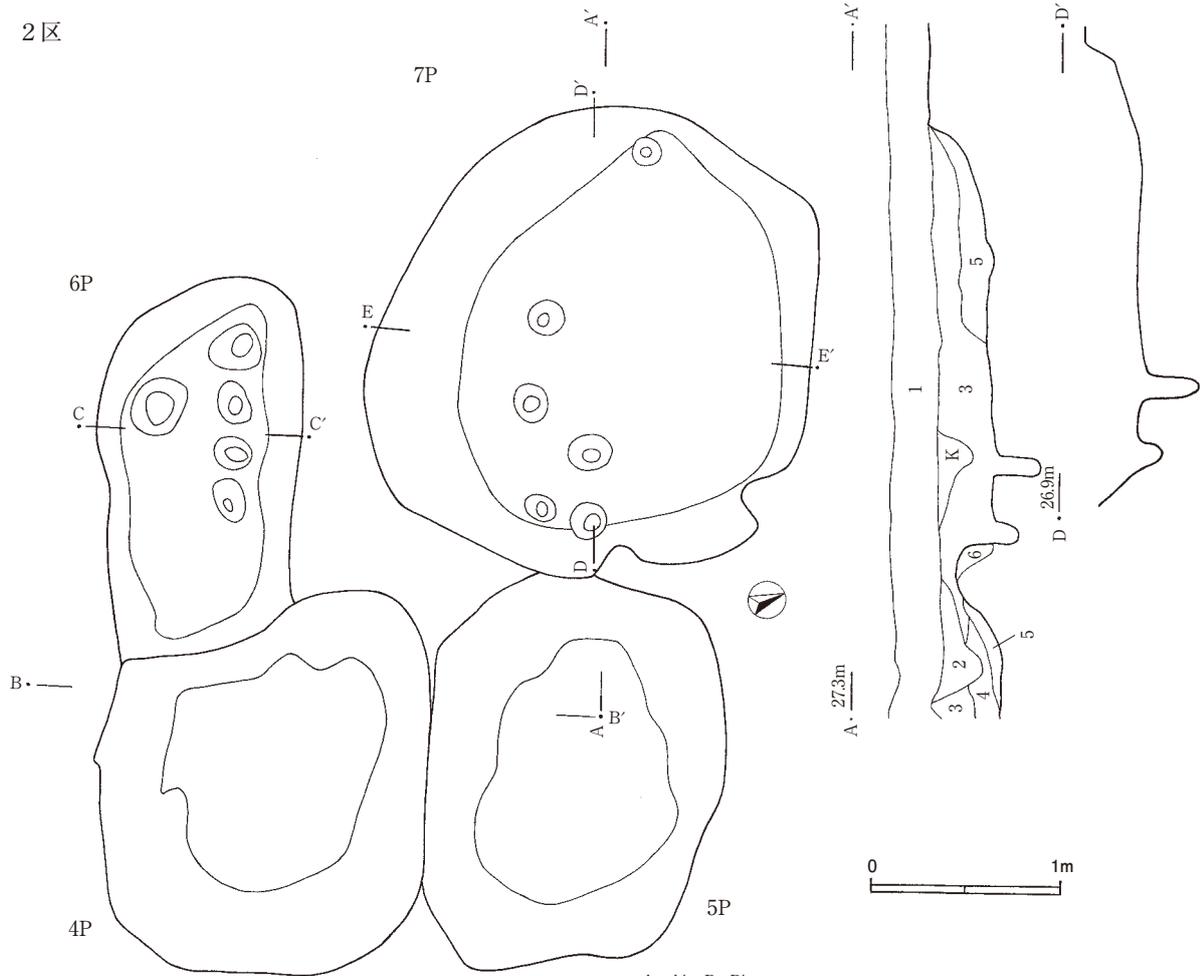
4P (第6図)

検出地区 2区北東側。5Pと接し、6Pを切る。 **遺構** 南北2.04m×東西1.84mの略方形で、深さ0.36m。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、自然堆積と考えられる。 **遺物** 縄文土器が1点出土した。浮島・興津式の口縁部で無文。ヘラ状工具による削り調整を施す。 **所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。覆土の状況から5P・7Pと同時期と考えられる。

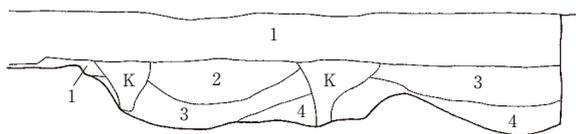


第5図 1区1P・2P, 2区1P・2P・8P遺構・遺物実測図

2区



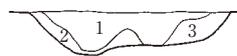
B. 27.3m



A-A' B-B'

- | | | | | |
|----|------------------|-----------------------|-------|--------|
| 1層 | 黒褐色 (10YR2/3) | 黒褐色土の均質な層 | 粘性 弱い | しまり 普通 |
| 2層 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | にぶい黄褐色土を主体にローム粒子を中量含む | 普通 | 普通 |
| 3層 | 褐色 (10YR4/4) | 褐色土を主体にローム粒子を少量含む | やや強い | 普通 |
| 4層 | 褐色 (10YR4/6) | 褐色土を主体に黒色土を微量含む | 普通 | 普通 |
| 5層 | 黄褐色 (10YR5/8) | 黄褐色土を主体に黒色土を微量含む | やや強い | 普通 |

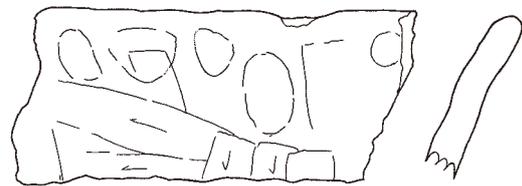
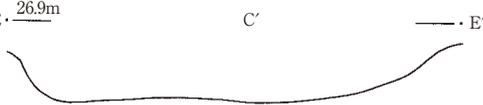
C. 27.1m



C-C'

- | | | | | |
|----|----------------|------------|-------|----------|
| 1層 | 暗灰褐色 (2.5Y4/2) | ローム粒子を多量含む | 粘性 普通 | しまり やや弱い |
| 2層 | 黄褐色土 (2.5Y5/6) | 黄褐色土の均質な層 | 普通 | 普通 |

E. 26.9m



4P-1



5P-1



7P-1



第6図 2区4P~7P遺構・遺物実測図

5 P (第6図)

検出地区 2区北東側。4 P, 7 Pと接する。**遺構** 長軸2.03m×短軸1.56mの略方形で、深さ0.35m。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器が2点出土(浮島・興津式, 諸磯c式)した。1は諸磯c式で集合沈線文を施文する。胎土に小礫を多量に含む。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。覆土の状況から4 P, 7 Pとほぼ同時期の遺構と考えられる。

6 P (第6図)

検出地区 2区東側。西側を4 Pに切られる。**遺構** 残存部は南北1.07m×東西1.75mで、深さ0.33m。底面は平坦で、ピットが5基確認され、うち4基は一列に並んでいる。壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 2層に分層される。2層が堆積したのち、掘りなおされたと考えられる。**所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。覆土の観察から一度埋まったのち、底面のピットが構築されたと考えられる。類似遺構2区7 P, 5区2 P等。

7 P (第6図)

検出地区 2区北側。5 Pを切る。**遺構** 南北2.61m×東西2.48mの略方形で、深さ0.52m。底面は平坦で、ピットが6基検出された。壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 覆土は2層に分層され、自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器が1点出土した。1は浮島・興津式で三角文を施文する。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。5 Pを切るが、覆土の状況から4 P, 5 Pとほぼ同時期の遺構と考えられる。類似遺構2区6 P, 5区2 P等。

9 P (第7図)

検出地区 2区北西側。**遺構** 長辺0.78m×短辺0.54mの楕円形で、深さ0.39m。底面はすり鉢状で、壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 覆土は2層に分層され、自然堆積と考えられる。**所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

10 P (第7図)

検出地区 2区北側。**遺構** 長辺4.23m×短辺2.63mの不定形で、深さ0.39m。底面は南側がすり鉢状に窪み、北側は平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 覆土は2層に分層され、人為的な掘り込みが確認できる。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。類似遺構2区11 P, 4区13 P。

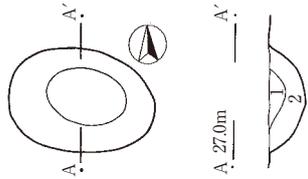
11 P (第7図)

検出地区 2区中央部。**遺構** 長辺5.45m×短辺1.77mの細長い不定形で、深さ0.35m。底面は平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 覆土は2層に分層され、自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。類似遺構2区10 P, 4区13 P。

12 P (第7図)

検出地区 2区北東側。**遺構** 南北0.59m×東西0.59mの略方形で、深さ0.36m。底面はすり鉢状で、

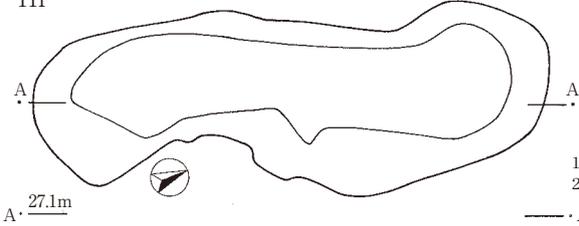
2区
9P



粘性 しまり

- 1層 褐色 (10YR4/6) 褐色土を主体にローム粒子を多量含む 普通 普通
2層 明黄褐色 (10YR6/8) 明黄褐色土の均質な層 普通 やや強い

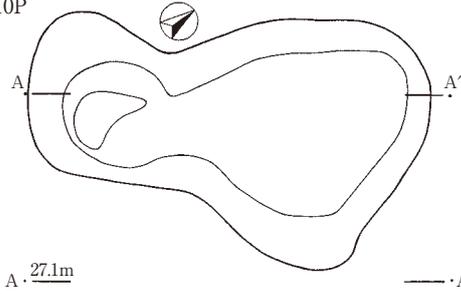
11P



粘性 しまり

- 1層 1層 におい黄褐色 (10YR4/3) におい黄褐色土を主体にローム粒子を微量含む 普通 普通
2層 褐色 (10YR4/6) 褐色土の均質な層 普通 普通
3層 黄褐色 (10YR5/6) 黄褐色土の均質な層 普通 普通
4層 灰黄褐色 (10YR4/2) 灰黄褐色土を主体にロームブロックを微量、ローム粒子を少量含む 普通 やや弱い

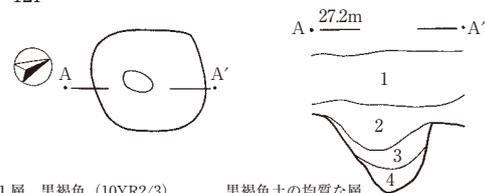
10P



粘性 しまり
普通 普通
普通 普通

- 1層 におい黄褐色 (10YR5/4) におい黄褐色土を主体にローム粒子を微量含む 普通 普通
2層 黄褐色 (10YR5/6) 黄褐色土の均質な層 普通 普通

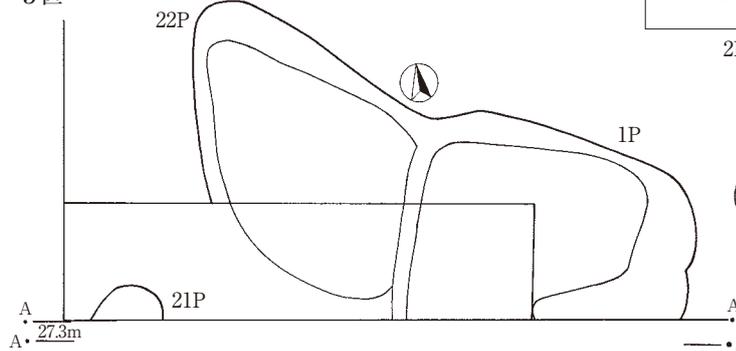
12P



粘性 しまり
弱い 普通
普通 普通
普通 普通

- 1層 黒褐色 (10YR2/3) 黒褐色土の均質な層 普通 普通
2層 におい黄褐色 (10YR4/3) におい黄褐色土の均質な層 普通 普通
3層 暗褐色 (10YR3/3) 暗褐色土を主体にローム粒子を微量含む 普通 普通
4層 褐色 (10YR4/6) 褐色土の均質な層 普通 やや弱い

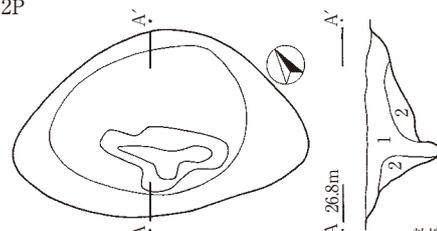
3区



粘性 しまり

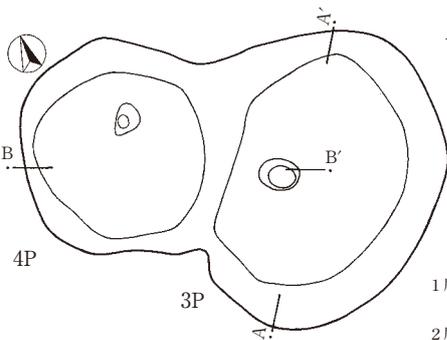
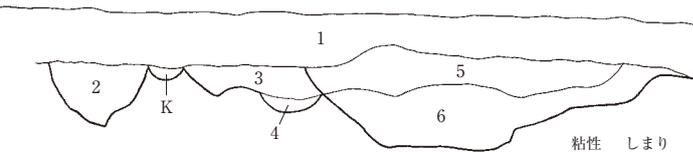
- 1層 黒褐色 (10YR2/3) 黒褐色土の均質な層 弱い 普通
2層 黄褐色 (2.5Y5/4) 黄褐色土を主体にローム粒子を少量含む 弱い 普通
3層 オリーブ灰色 (2.5Y4/4) オリーブ灰色土を主体にローム粒子を微量含む 弱い 普通
4層 黄褐色 (2.5Y5/4) 黄褐色土の均質な層 普通 普通
5層 におい黄褐色 (10YR4/3) におい黄褐色土を主体にローム粒子を微量含む 弱い 普通
6層 におい黄褐色 (10YR5/4) におい黄褐色土を主体に灰黄褐色土を少量含む 普通 普通

2P



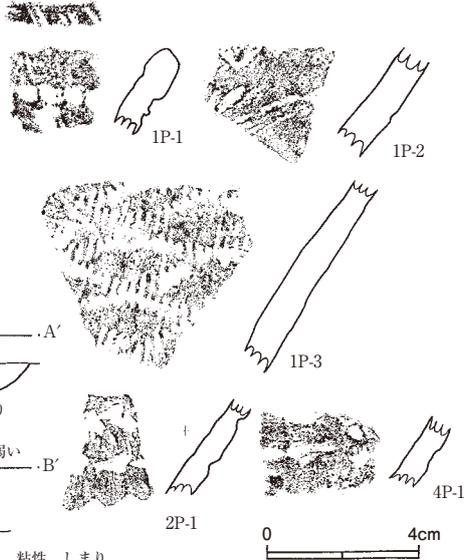
粘性 しまり

- 1層 黒褐色 (10YR3/2) 黒褐色土を主体にローム粒子を少量含む 普通 やや弱い
2層 褐色土 (10YR4/6) 褐色土を主体に黒色土を微量含む 普通 普通



A. 27.3m

- 1層 褐色 (10YR4/6) 褐色土を主体にローム粒子を微量含む 普通 強い
2層 黄褐色 (10YR5/8) 黄褐色土の均質な層 普通 普通



0 1m

第7図 2区9P~12P, 3区1P~4P・21P・22P遺構・遺物実測図

壁面は急に立ち上がる。**覆土** 覆土は3層に分層され、自然堆積と考えられる。**所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

3区

1P (第7図)

検出地区 3区南西側。22Pを切る。**遺構** 残存部は2.05m×1.07mの方形で、深さ0.47m。南側は調査区外に延びる。底面は平坦で、壁面は東側では緩やかに立ち上がり、他面では急に立ち上がる。**覆土** 覆土は2層に分層され、自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器が4点(浮島・興津式2点、稲荷台式1点、型式不明1点)出土した。1・3は浮島・興津式である。1は口縁部片で、口唇部の刻み目文と体部の竹管刺突列を施文する。2は稲荷台式で、撚りの緩い2条の撚糸文Rを施文する。3はロッキング手法の波状貝殻文を施文する。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

21P (第7図)

検出地区 3区南西側。**遺構** 残存部は直径0.18mの半円形で、深さ0.47m。南側は調査区外に延びる。底面はすり鉢状で、壁面は急に立ち上がる。**覆土** 1層のみで、自然堆積である。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した。3区1P-2と同一個体で、ロッキング手法の波状貝殻文を施文する(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。

22P (第7図)

検出地区 3区南西側。1Pと切り合う。**遺構** 残存部は長軸1.95m×短軸0.65mの楕円形で、深さ0.2m。遺構の東側で1Pに切られ、南側は調査区外に延びる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。南側では検出面から0.1m下に段が認められる。**覆土** 2層に分層され、自然堆積と考えられる。**所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構3区10P・19P。

2P (第7図)

検出地区 3区南側。**遺構** 長軸1.56m×短軸0.97mで、深さ0.38m。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。**覆土** 2層に分層され、2層が埋まったのち、柱穴状の掘り込みが確認できる。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した。三角文を施文する。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。

3P (第7図)

検出地区 3区南西側。4Pを切る。**遺構** 長軸1.63m×短軸1.60mの円形で、深さ0.16m。底面はほぼ平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。**覆土** 1層のみで自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器が1点出土した。形式は不明である(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

4P (第7図)

検出地区 3区南西側。3Pに切られる。**遺構** 南北1.16m×東西1.13mの円形で、深さ0.23m。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。**覆土** 2層で自然堆積。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が2点出土。1は三角文を施文する。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。3Pより古い。

5 P (第8図)

検出地区 3区南側。23Pに切られる。**遺構** 残存部長辺1.63m×短辺0.88mで、深さ0.22m。底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土** 覆土は2層で自然堆積である。**所見** 遺構の切り合い関係から縄文時代の遺構と判断した。23Pより古い。

6 P (第8図)

検出地区 3区南側。23Pを切り、15Pに切られる。**遺構** 残存部長辺1.47m×短辺1.24mで、深さ0.23m。底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。**覆土** 覆土は2層で自然堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器が2点(浮島・興津式1点、型式不明1点)出土した(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。23Pより新しい。

14 P (第8図)

検出地区 3区中央部。15P・23Pを切る。**遺構** 長辺3.1m×短辺1.68mの不定形で、深さ0.51m。底面は凹凸が激しく、壁面は弧を描くように斜めに立ち上がる。**覆土** 覆土は5層で人為的な堆積と考えられる。**遺物** 縄文土器(型式不明)が1点出土した(図示なし)。旧石器時代の石核(1)、剥片31点(3から33)、小型尖頭器(2)が出土した。1・2は黒耀石製で、剥片は珪質頁岩と黒耀石が主体を占める。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。15P・23Pを切り、5P・6P・14P・15P・23Pの中で一番新しい遺構である。

15 P (第8図)

検出地区 3区中央部。西側を14Pに切られ、南側の23Pを切っている。**遺構** 残存部は長辺2.66m×短辺1.47mの不定形で、深さ0.43m。底面は凹凸が激しく、壁面は弧を描くように斜めに立ち上がる。**覆土** 覆土は5層で人為的な堆積と考えられる。**所見** 遺構の切り合いから縄文時代の遺構と判断した。23Pより新しく14Pより古い遺構と考えられる。類似遺構3区14P等。

23 P (第8図)

検出地区 3区中央部。北側を14P、15P、東側を6Pに切られ、南側の5Pを切る。**遺構** 残存部は長辺1.98m×短辺0.98mの不定形で、深さ0.49m。底面は凹凸が激しく、壁面はカーブを描くように斜めに立ち上がる。北側を14P・15Pに切られ、南側の5P、東側の6Pを切る。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。遺構の切り合いから6Pより新しく、5P・14P・15Pより古い。

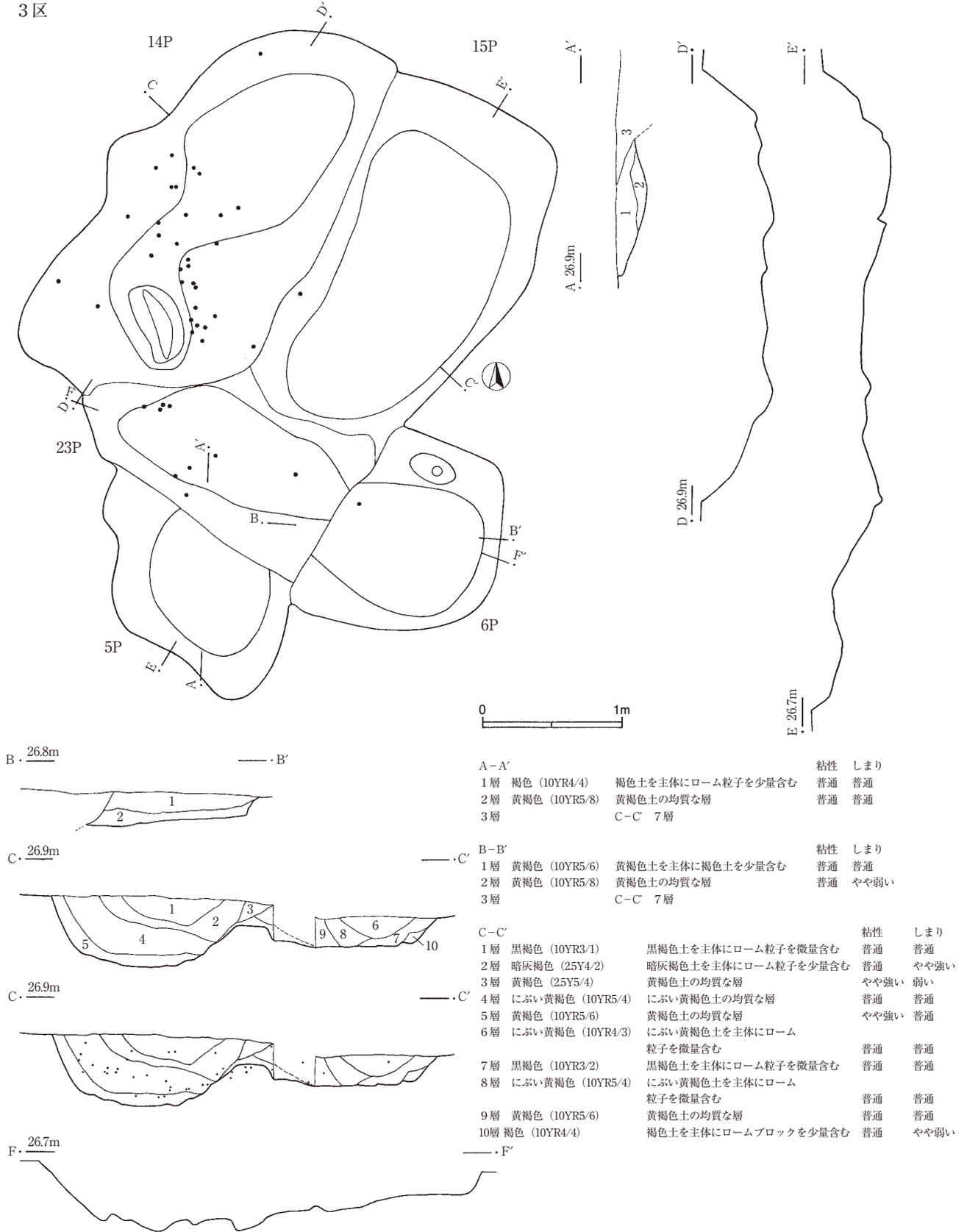
7 P (第9図)

検出地区 3区東側。8Pに接する。**遺構** 残存部は長辺0.61m×短辺0.43mの楕円形で、深さ0.32m。底面は凹凸で、壁面は急激に立ち上がる。**覆土** 2層に分層され、自然堆積である。**所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

8 P (第9図)

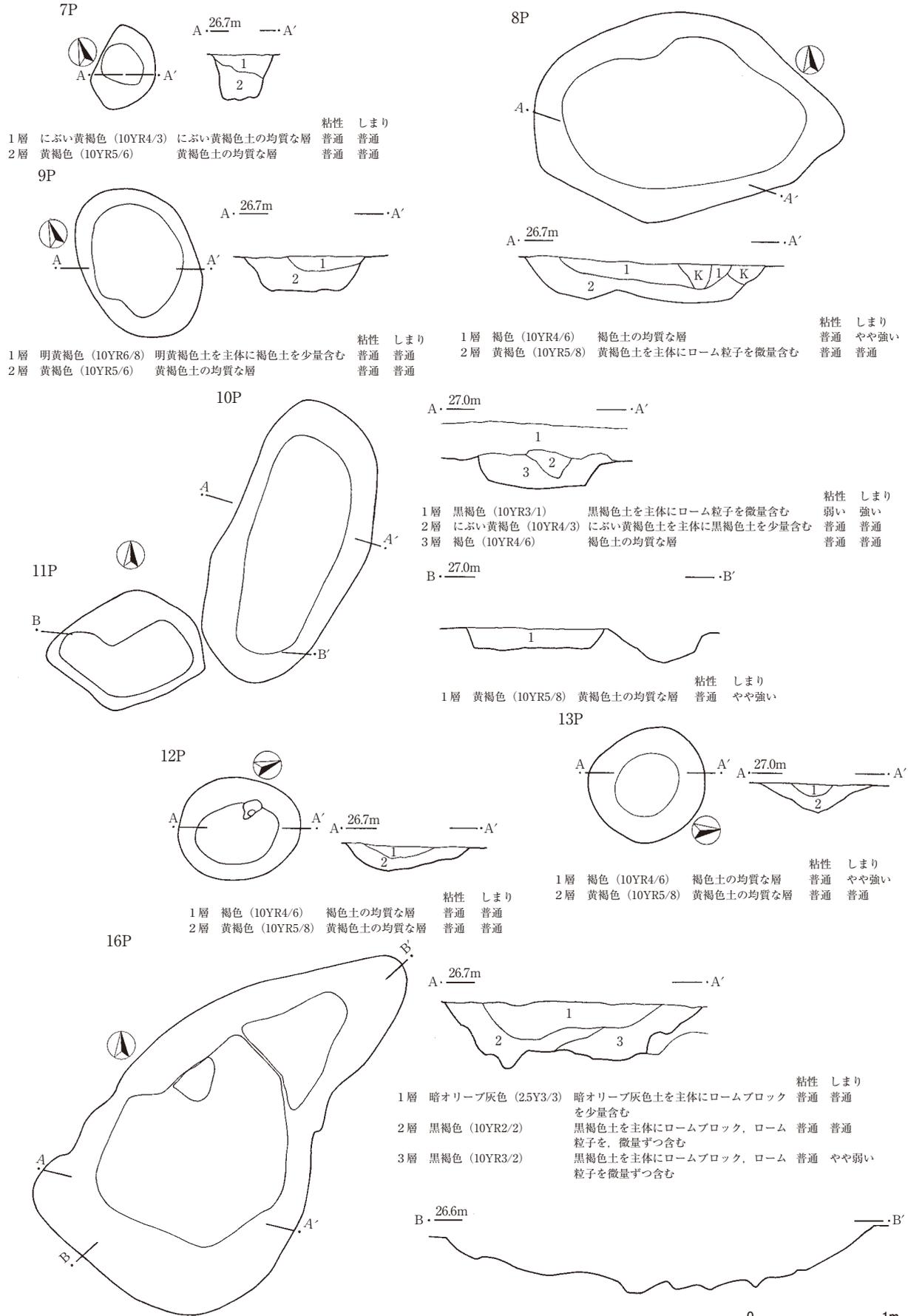
検出地区 3区北側。**遺構** 長辺2.21m×短辺1.50mの楕円形で、深さ0.29m。底面は平坦で、壁面は弧を描いて斜めに立ち上がる。**覆土** 2層に分層され、自然堆積である。**遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した(図示なし)。**所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。

3区



第8図 3区5P・6P・14P・15P・23P遺構実測図

3区



第9図 3区7P~13P・16P遺構実測図



9P (第9図)

検出地区 3区中央側。 **遺構** 長辺1.14m×短辺0.81mの楕円形で、深さ0.25m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

10P (第9図)

検出地区 3区西側。 **遺構** 長辺2.07m×短辺1.02mの楕円形で、深さ0.23m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、3層が堆積したのち、掘り込まれて、2層が堆積した。 **遺物** 縦長剥片(旧石器)が1点出土した。石材は珪質頁岩か。 **所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構3区19P, 22P。

11P (第9図)

検出地区 3区西側。 **遺構** 南北1.11m×東西0.83mの菱形で、深さ0.15m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 1層のみで、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構3区3P。

12P (第9図)

検出地区 3区西側。 **遺構** 長軸0.89m×短軸0.74mの楕円形で、深さ0.17m。底面はすり鉢状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

13P (第9図)

検出地区 3区西側。 **遺構** 南北0.84m×東西0.8mの円形で、深さ0.2m。底面はすり鉢状で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

16P (第9図)

検出地区 3区北側。 **遺構** 長軸3.07m×短軸1.7mの三角形で、深さ0.47m。底面は凹凸で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、土中にロームブロックを一定量含み人為的な堆積の可能性がある。 **遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した(図示なし)。 **所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

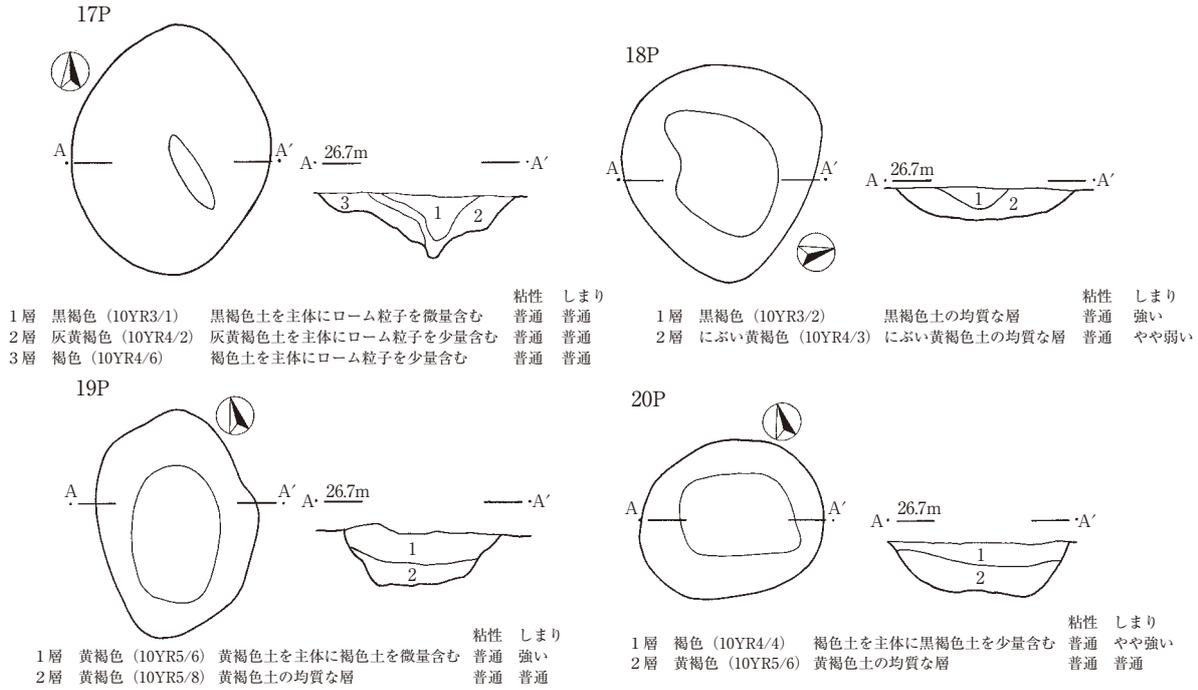
17P (第10図)

検出地区 3区北側。 **遺構** 長軸1.32m×短軸1.04mの楕円形で、深さ0.32m。底面はすり鉢状で、最深部に細長いピットがある。壁面は斜めに立ち上がり、検出面から1mから1.5mあたりに段が認められる。 **覆土** 3層に分層され、掘り直しの痕跡が認められる。 **遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が1点出土した(図示なし)。 **所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

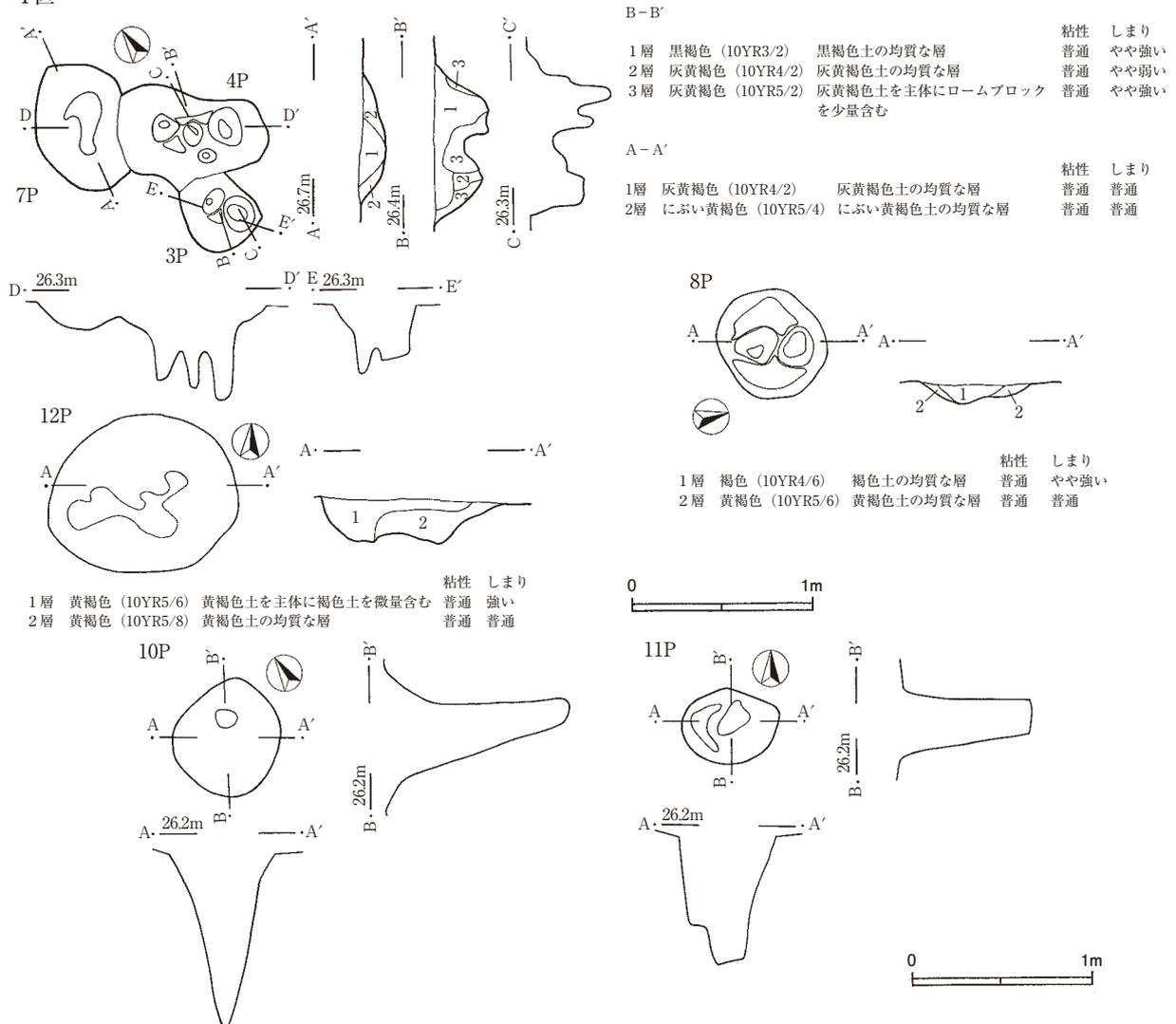
18P (第10図)

検出地区 3区西側。 **遺構** 南北1.07m×東西1.14mの円形で、深さ0.17m。底面は平坦で、壁面は緩

3区



4区



第10図 3区17P~20P, 4区3P・4P・7P・8P・10P~12P遺構実測図

やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

19P (第10図)

検出地区 3区北西側。 **遺構** 長軸1.22m×短軸0.84mの楕円形で、深さ0.27m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構 3区10P。

20P (第10図)

検出地区 3区南東側。 **遺構** 南北0.83m×東西0.96mの楕円形で、深さ0.25m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

4区

3P (第10図)

検出地区 4区南側。4Pに切られる。 **遺構** 南北0.44m×東西0.39mの略方形で、深さ0.26m。底面にピット2基を確認した。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層される。柱穴跡と考えられる人為的な堆積が認められる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

4P (第10図)

検出地区 4区南側。3Pを切る。 **遺構** 長軸1.67m×短軸1.08mの略方形で、深さ0.26mである。底面にはピットが4基確認できる。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、人為的な堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

7P (第10図)

検出地区 4区南側。4Pに切られる。 **遺構** 南北0.75m×東西0.55mの楕円形で、深さ0.14m。底面はすり鉢状で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、掘り込みがみられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

8P (第10図)

検出地区 4区南側。 **遺構** 南北0.59m×東西0.61mの円形で、深さ0.1m。底面は、2ヶ所の浅いへこみと平坦面からなる、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、掘り込みが認められる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

12P (第10図)

検出地区 4区西側。 **遺構** 南北0.87m×東西1.05mの円形で、深さ0.24m。底面は、不定形に凹み、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、人為的な掘り込みが認められる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

10P (第10図)

検出地区 4区南側。 **遺構** 南北0.3m×東西0.31mの円形で、深さ0.51m。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。 **所見** 遺構の形状から縄文時代の遺構と判断した。

11P (第10図)

検出地区 4区中央。 **遺構** 南北0.21m×東西0.28mの楕円形で、深さ0.36m。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。 **所見** 遺構の形状から縄文時代の遺構と判断した。

1P (第11図)

検出地区 4区北西側。 **遺構** 南北4.25m×東西4.31mの円形で、深さ1.08m。底面は、遺構南側にあり、2つの凹みが認められる。壁面は、南側で急に立ち上がり、北側は2段、東・西側は1段の平坦面が認められる。北面下段にはピットが2基検出された。 **覆土** 5層に分層され、人為的な堆積が認められる。 **遺物** 縄文土器（浮島Ⅰ式）が1点出土した。平行沈線文と撚糸文を施文する（図示なし）。 **所見** 遺物から縄文時代の遺構と判断した。底面の状況等から、複数基の遺構が切り合っていると考えられる。また、北側の平坦面下段の一部は竪穴住居の床面の可能性がある。

13P (第12図)

検出地区 4区中央。 **遺構** 長軸2.6m×短軸1.3mの不定形で、深さ0.13m。底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **遺物** 縄文土器（浮島・興津式）が2点出土した。1は波状貝殻文を施文する。 **所見** 遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。類似遺構 2区10P, 11P。

15P (第12図)

検出地区 4区東側。 **遺構** 長軸1.53m×短軸1.06mの楕円形で、深さ0.23m。底面は、すり鉢状の部分と平坦の部分があり、2段になっている。壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

16P (第12図)

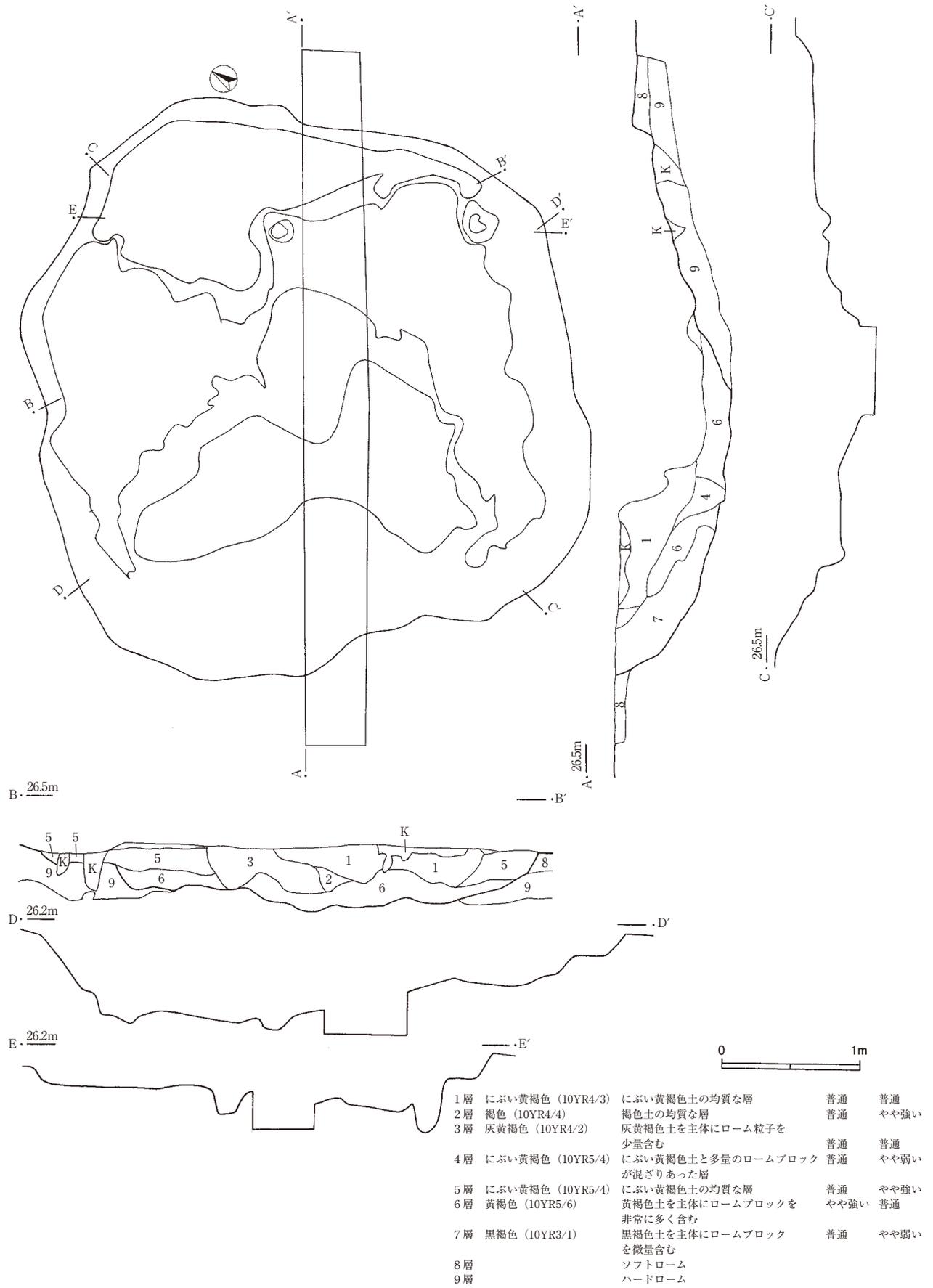
検出地区 4区東側。 **遺構** 南北1.42m×東西0.82mの瓢箪形で、深さ0.32m。底面はすり鉢状で、南側に検出面より0.18m下に平坦面があり、2段になっている。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

17P (第12図)

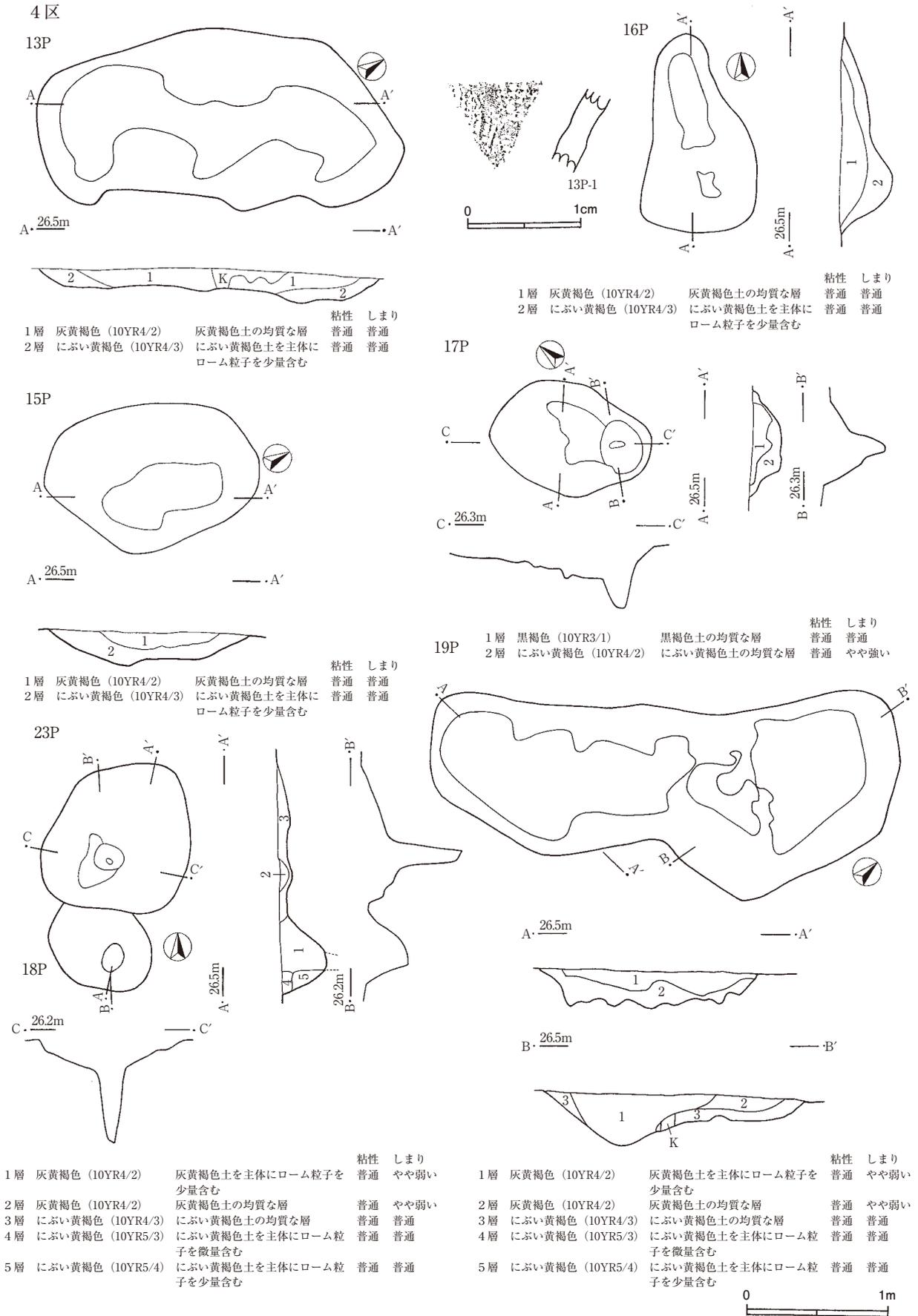
検出地区 4区中央。 **遺構** 長軸1.15m×短軸0.79mの楕円形で、深さ0.2m。底面は平坦で、ピットが1基ある。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

18P (第12図)

検出地区 4区西側。26Pに切られる。 **遺構** 残存部は長軸0.76m×短軸0.58m以上の楕円形で、深さ0.31m。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、人為的な堆積が認められる。



第11図 4区1P遺構実測図



第12図 4区13P・15P～19P・28P遺構・遺物実測図

所見 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

28 P (第12図)

検出地区 4区西側。18Pを切る。 **遺構** 南北1.05m×東西1.06mの略方形で、深さ0.71m。底面には、ピットがあり、壁面は緩やかに立ち上がる部分と、傾斜が途中で変化する部分がある。 **覆土** 2層に分層される。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

19 P (第12図)

検出地区 4区南東側。 **遺構** 長軸3.23m×短軸1.33mの不定形で、深さ0.31m。底面は、北側では掘り込みにより、すり鉢状になっている部分と、平坦の部分があり、南側では凹凸が激しい。壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、人為的な堆積が認められる。北側には掘り込みが認められる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

20 P (第13図)

検出地区 4区南側。 **遺構** 南北0.41m×東西0.46mの円形で、深さ0.22mである。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、人為的な掘り込み痕がある。 **所見** 覆土と遺構形状から縄文時代の遺構と判断した。

21 P (第13図)

検出地区 4区中央。 **遺構** 南北0.73m×東西0.64mの円形で深さ0.28m。底面はすり鉢状でピットが中央に1基ある。壁面は斜めに立ち上がり、西側は途中で傾斜が変わる。 **覆土** 2層に分層でき、人為的な掘り込みがみられる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

22 P (第13図)

検出地区 4区北東側。 **遺構** 長軸0.69m×短軸0.63mの円形で、深さ0.21m。底面は、三日月状にへこみ、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

23 P (第13図)

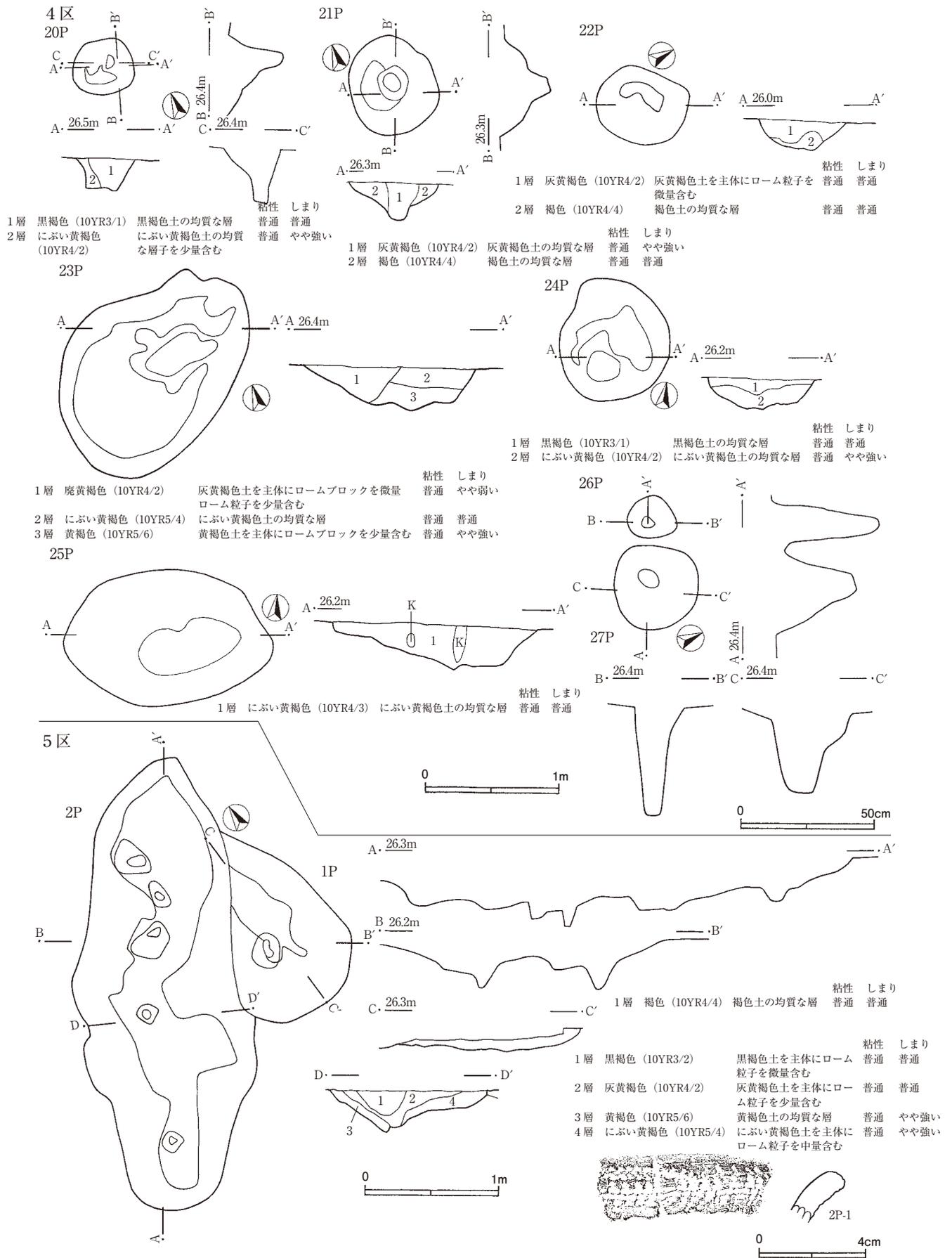
検出地区 4区中央側。 **遺構** 長軸1.72m×短軸1.22mの楕円形で、深さ0.31m。底面は凹凸で、壁面は緩やかに立ち上がる部分と、比較的急に立ち上がる部分がある。 **覆土** 3層に分層され、人為的な掘り込み痕がある。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

24 P (第13図)

検出地区 4区中央側。 **遺構** 南北0.91m×東西0.82mの円形で、深さ0.22m。底面は、三日月状の凹凸のある部分と、平坦の部分がある。壁面はカーブを描いて斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

25 P (第13図)

検出地区 4区北側。 **遺構** 長軸1.57m×短軸1.01mの楕円形で、深さ0.32m。底面は平坦で、壁面は



第13図 4区20P~27P, 5区1P・2P遺構・遺物実測図

緩やかに立ち上がる部分と、そうでない部分がある。 **覆土** 1層のみで、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。

26 P (第13図)

検出地区 4区南西側。 **遺構** 南北0.17m×東西0.16mの隅丸の三角形で、深さ0.3m。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

27 P (第13図)

検出地区 4区南西側。 **遺構** 南北0.32m×東西0.33mの円形で、深さ0.39m。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

5区

1 P (第13図)

検出地区 5区北東側。2 Pに切られる。 **遺構** 長軸1.3m以上×短軸1.0m以上の楕円形で、深さ0.2m。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 1層のみで、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状等から縄文時代の遺構と判断した。

2 P (第13図)

検出地区 5区北東側。1 Pを切る。 **遺構** 長軸3.39m×短軸1.27mの楕円形で、深さ0.51m。平坦な底面に、5基のピットが列状に並ぶ。壁面は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 4層に分層され、人為的な掘り込みが認められる。 **遺物** 縄文土器(興津式)1点、石器3点が出土した。1は口縁部片で、押し引き貝殻文を施文する。2・3は研磨器片(旧石器)で、石材は珪質頁岩か。4は剥片で、石材は黒色緻密質安山岩か。 **所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構2区6 P, 7 P等。

3 P (第14図)

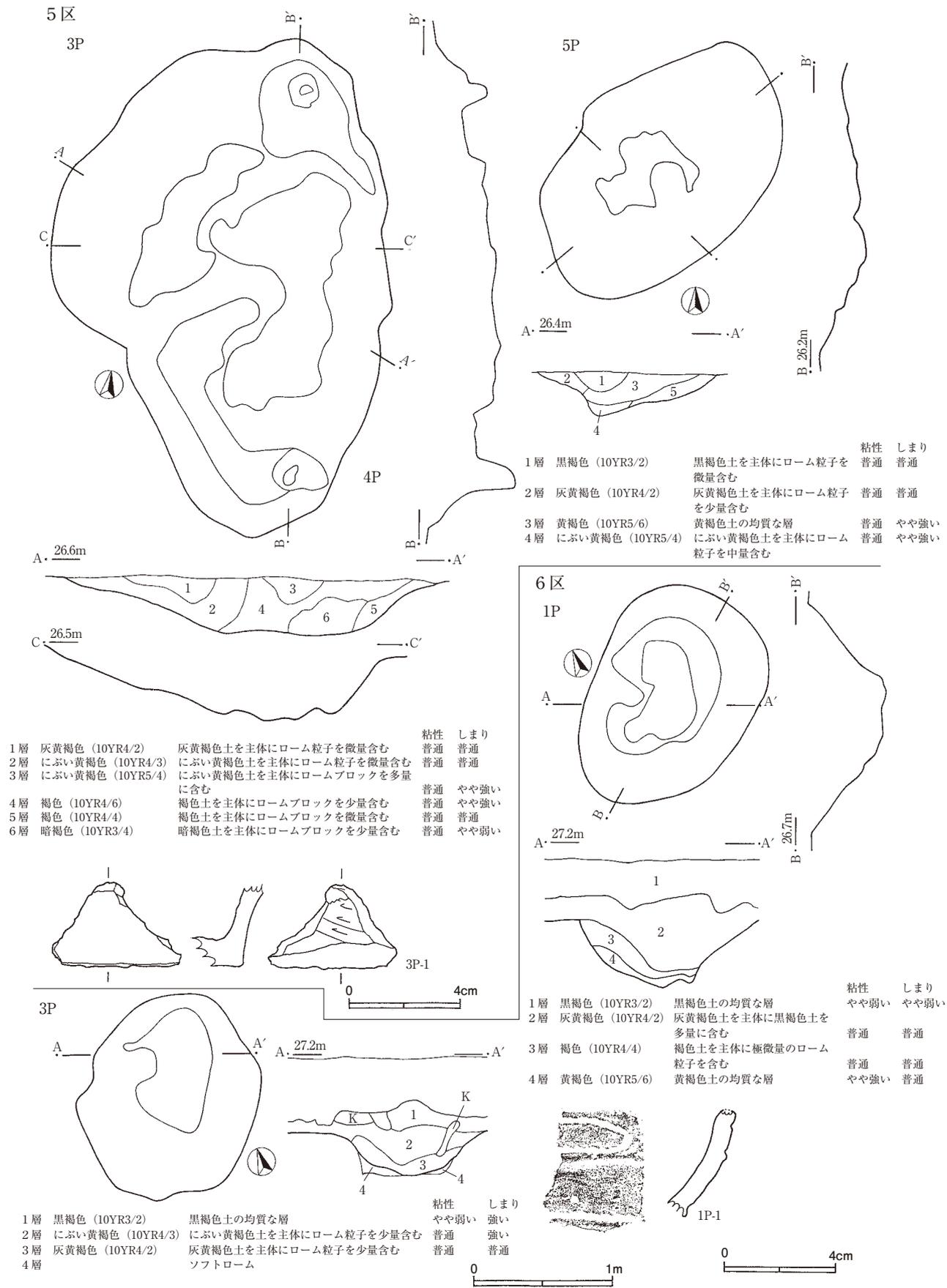
検出地区 5区中央。4 Pを切る。 **遺構** 長軸2.29m×短軸1.3mの楕円形で、深さ0.4m。底面は緩やかにへこむ。壁面は、東側は急に立ち上がり、西側は緩やかに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、人為的な掘り込みが認められる。 **遺物** 縄文土器(浮島・興津式)が2点出土した。1は底部片で、無文である。 **所見** 出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。4 Pより新しい。

4 P (第14図)

検出地区 5区中央。3 Pに切られる。 **遺構** 長軸3.62m×短軸1.56m以上の楕円形で、深さ0.39m。底面は凹凸が多い。壁面は、斜めに立ち上がる。 **覆土** 4層に分層され、人為的な堆積である。 **遺物** 縄文土器が2点(浮島I式1点・興津式1点)出土した(図示なし)。 **所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

5 P (第14図)

検出地区 5区北側。 **遺構** 長軸2.11m×短軸1.38mの楕円形で、深さ0.32m。底面は不定形に凹む。壁面は、緩やかに立ち上がり、西側の一部のみ検出面から0.16mのあたりで傾斜が変化する。 **覆土** 5層に分層され、3回程度の掘り直しが認められる。 **遺物** 縄文土器が2点(浮島I式・後晩期)出



第14図 5区3P~5P, 6区1P・3P遺構・遺物実測図

土した（図示なし）。 **所見** 出土遺物から縄文時代前期の遺構と判断した。

6区

1 P（第14図）

検出地区 6区北東側。 **遺構** 長軸1.64m×短軸1.18mの楕円形で、深さ0.5m。底面は多少の凹凸がある。壁面は、西側は碗のようにカーブを描いて立ち上がり、東側は下方が少し外湾しながら斜めに立ち上がる。 **覆土** 3層に分層され、自然堆積である。 **遺物** 縄文土器1点、縄文石器1点が出土した。1は阿玉台式I b式の口縁部である。楕円区画文に単列押し引き文を施文する。胎土は非雲母混入型である。2は磨石・敲石片である。扁平で先端部に叩打痕がある。石材は不明である。 **所見** 出土遺物から縄文時代期の遺構と判断した。類似遺構6区3 P, 4 P。

3 P（第14図）

検出地区 6区中央。 **遺構** 南北1.41m×東西1.33mの六角形で、深さ0.31m。底面は浅いU字で、壁面は斜めに立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構6区1 P, 4 P。

4 P（第15図）

検出地区 6区南西側。 **遺構** 南北1.19m×東西1.12mの円形で、深さ0.3m。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。 **覆土** 2層に分層され、自然堆積である。 **所見** 覆土や遺構の形状の観察等から縄文時代の遺構と判断した。類似遺構6区1 P, 3 P。

第2節 遺構外出土遺物（第16図）

1～2は旧石器時代の遺物である。1は研磨器である。中央に親指指頭大の研磨部と、端部に線条痕がある。同一個体が5区P 2（3・4）より出土した。2は剥片で、石材は珪質頁岩か。

3は興津Ⅰ式土器である。口縁部条線帯と櫛歯状施文具による条線文を施す。

4は弥生土器である。竹管による連続刺突と下位に櫛描波状文を施文する。

5は興津Ⅱ式土器である。沈線区画内に垂直刺突貝殻文と貝殻文（小型巻貝：擬似縄文）を充填する。

6は興津式土器で、条線文を施文する。

7は浮島・興津式土器で、ロッキング手法による波状貝殻文を施文する。擬口縁部で破断している。

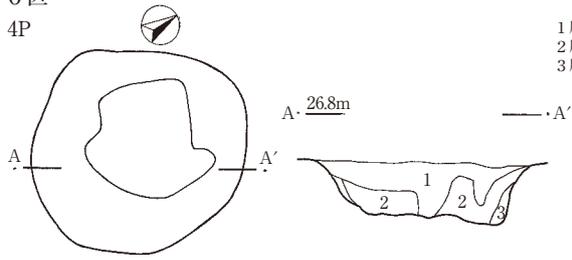
8は興津Ⅱ式土器である。口縁部条線帯、垂直刺突貝殻文、平行沈線文の多段構成である。

9は浮島Ⅲ～興津Ⅰ式土器である。口縁部条線帯・凹凸文・平行沈線文の構成である。

10は浮島Ⅰ式土器である。刻み付き垂下隆帯・平行爪形文（末端閉塞）の構成である。

11は諸磯c式土器である。口縁部に集合沈線文を施文する。胎土に白色小礫などを多量に含む。なお、前期末葉の全面縄文土器（興津式並行）を数片確認したが、小片のため図化は見送った。

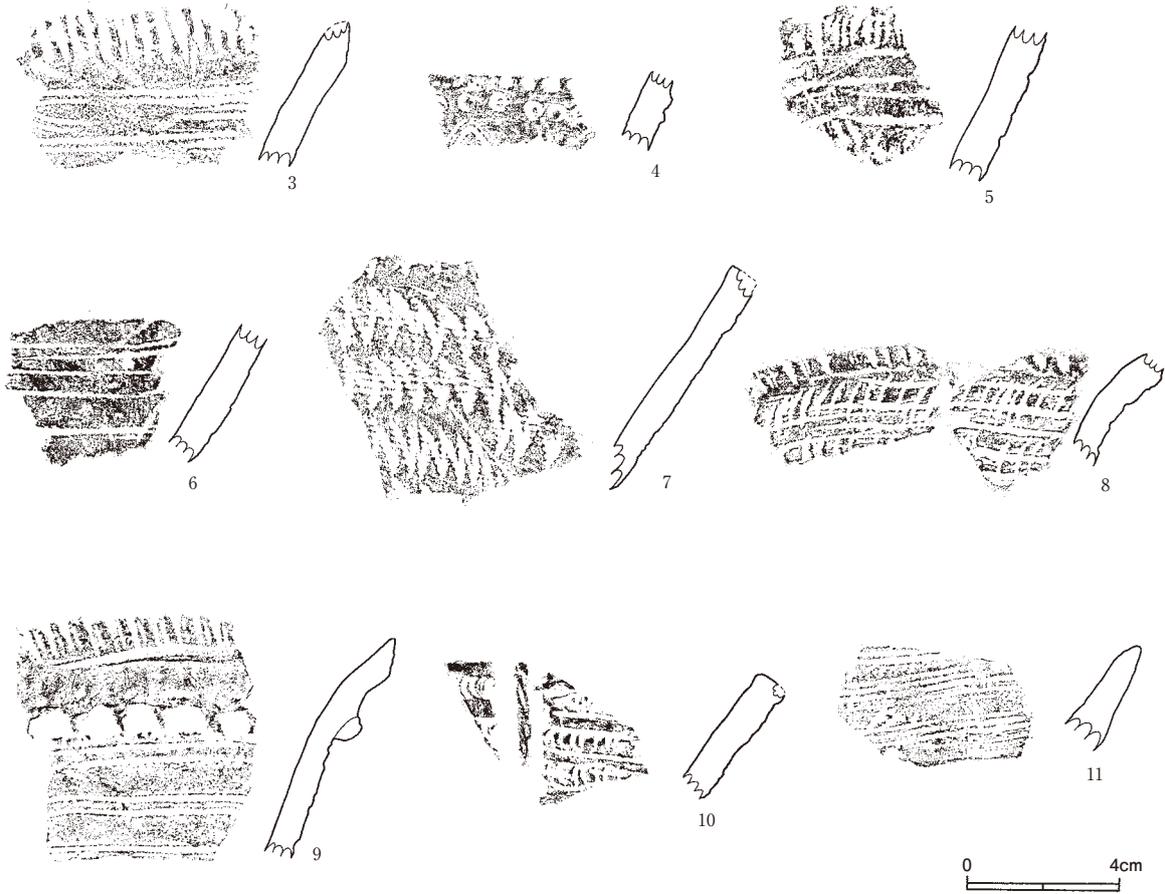
6区
4P



1層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色土を主体にローム粒子を少量含む	粘性	しまり
2層	褐色 (10YR4/6)	褐色土の均質な層	普通	普通
3層		ソフトローム	普通	普通

第15図 6区4P遺構実測図

0 1m



第16図 遺構外出土遺物実測図

第3章 成果と課題

今回の調査では、土坑群66基を検出した。大半の遺構は遺物が出土せず、時期・用途が不明確である。しかし、今回の調査で検出された遺構は、すでに調査された二重堀遺跡、新林遺跡各地点での検出遺構と類似した形態を有し、遺物に関しても、縄文時代前期後葉（浮島～興津式期）の遺物が主体で、以前の調査と同様の年代観を示す。調査結果から、二重堀遺跡周辺では縄文時代に黒沢支谷南側を主な生活域としていたと考えられ、以下のことが具体的に明らかになった。

- ①早期前葉（井草期）の単発居住（竪穴状遺構＋土坑）…新林d地点
- ②早期後葉（条痕文期）の炉穴群（炉穴4基）…二重堀e地点（黒沢支谷最奥部）
- ③前期後葉（浮島期～興津期）の拠点集落（住居＋土坑群）…二重堀a/b/h地点・新林c/d地点・黒沢池上遺跡
- ④中期初頭（五領ヶ台期）の小規模集落（盥状土坑＋土坑群）…新林c/d地点・黒沢池上遺跡
- ⑤中期中葉（加曾利E期）の単発居住（住居＋土坑）…新林c地点
- ⑥後期初頭（称名寺期）の単発居住（住居）…黒沢池上遺跡
- ⑦後期中葉（加曾利B期）の痕跡（土坑）…二重堀a地点：1基・二重堀e地点：1基
- ⑧縄文時代の落とし穴

さらに、3区P14を中心に旧石器時代の剥片等の遺物が多量に出土し、旧石器時代の遺構の存在を推定できた。しかし、ほとんどの遺物は縄文時代の遺構に後から混入したと考えられる出土状況を示し、旧石器時代の遺構は、縄文時代以降の影響を強く受けて、失われてしまっている。

参考文献

- 八千代市史編さん委員会1991『八千代市の歴史』資料編 原始・古代・中世
八千代市史編さん委員会2018『八千代市の歴史』通史編 上
八千代市教育委員会1994『平成5年度 八千代市埋蔵文化財調査年報』
八千代市教育委員会1995『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成6年度』
八千代市教育委員会1997『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』
八千代市教育委員会1998『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度』
八千代市教育委員会1999『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度』
八千代市教育委員会2002『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』
八千代市教育委員会2003『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
八千代市教育委員会2005『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』
八千代市教育委員会2018『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成29年度』
八千代市教育委員会2019『八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度』
秋山利光ほか2007『二重堀遺跡 新林遺跡』八千代市二重堀遺跡調査会ほか
森竜哉ほか2003『黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書』八千代市遺跡調査会
宮沢久史ほか2007『新林遺跡c地点発掘調査報告書』八千代市遺跡調査会

写 真 图 版

図版 1



調査前



1区遺構検出状況



2区遺構検出状況



3区遺構検出状況



4区遺構検出状況



5区遺構検出状況



6区遺構検出状況



1区完掘状況



2区完掘状況



3区完掘状況



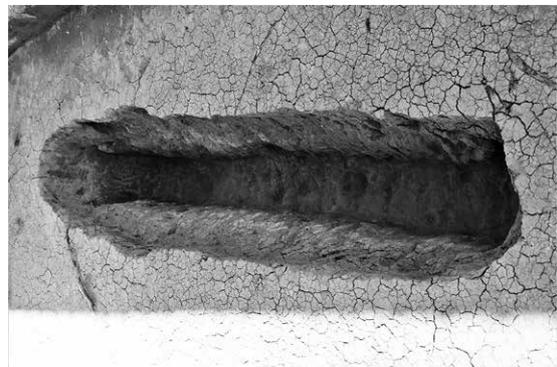
4区完掘状況



5区完掘状況



6区完掘状況



1区1P



1区2P



2区4P・5P遺物出土状況

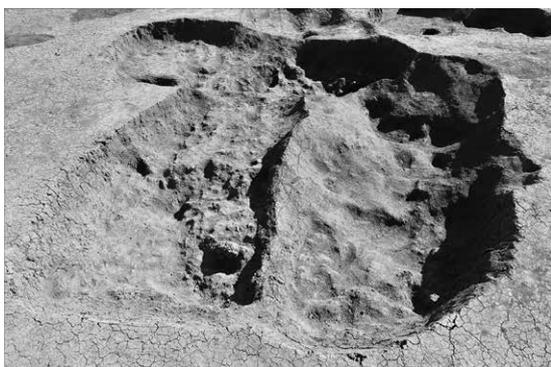
図版3



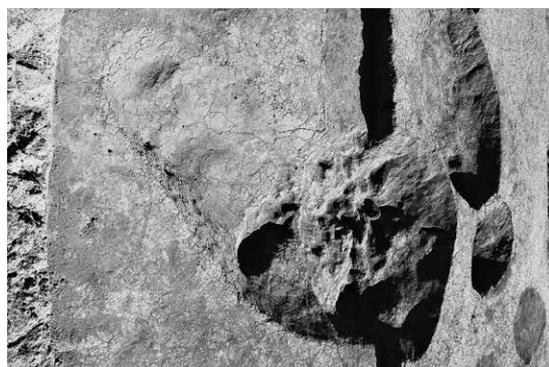
2区6Pセクション



2区7Pセクション



3区5P・6P・14P・15P・23P全景



3区11P全景



4区1P全景



4区3P・4P・7P全景



4区10P全景



4区16P全景



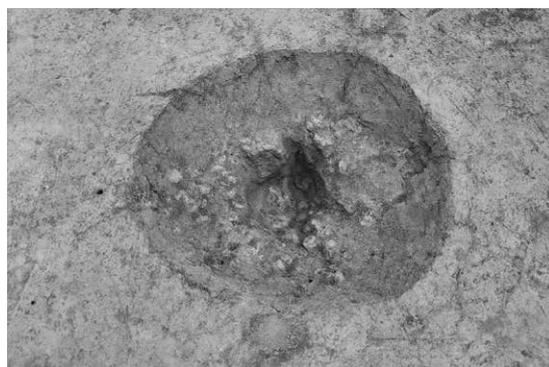
4区18P・28P全景



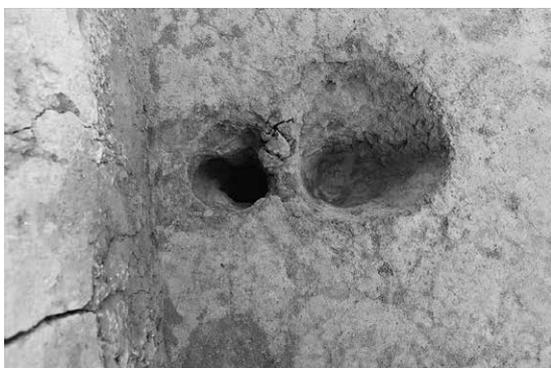
4区19P



4区20P全景



4区21P全景



4区26P・27P全景



5区1P・2P全景



5区3P・4P全景



5区5Pセクション

图版5



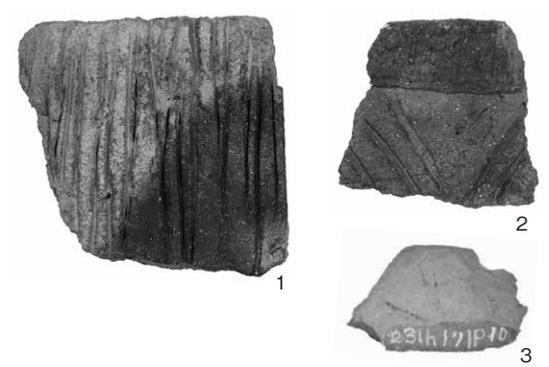
6区1P全景



6区3P全景



6区4P全景



1区1P出土遺物



P4-1



P5-1



P7-1

2区出土遺物



1P-1



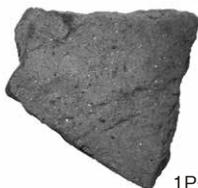
1P-3



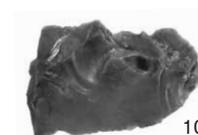
2P-1



4P-1

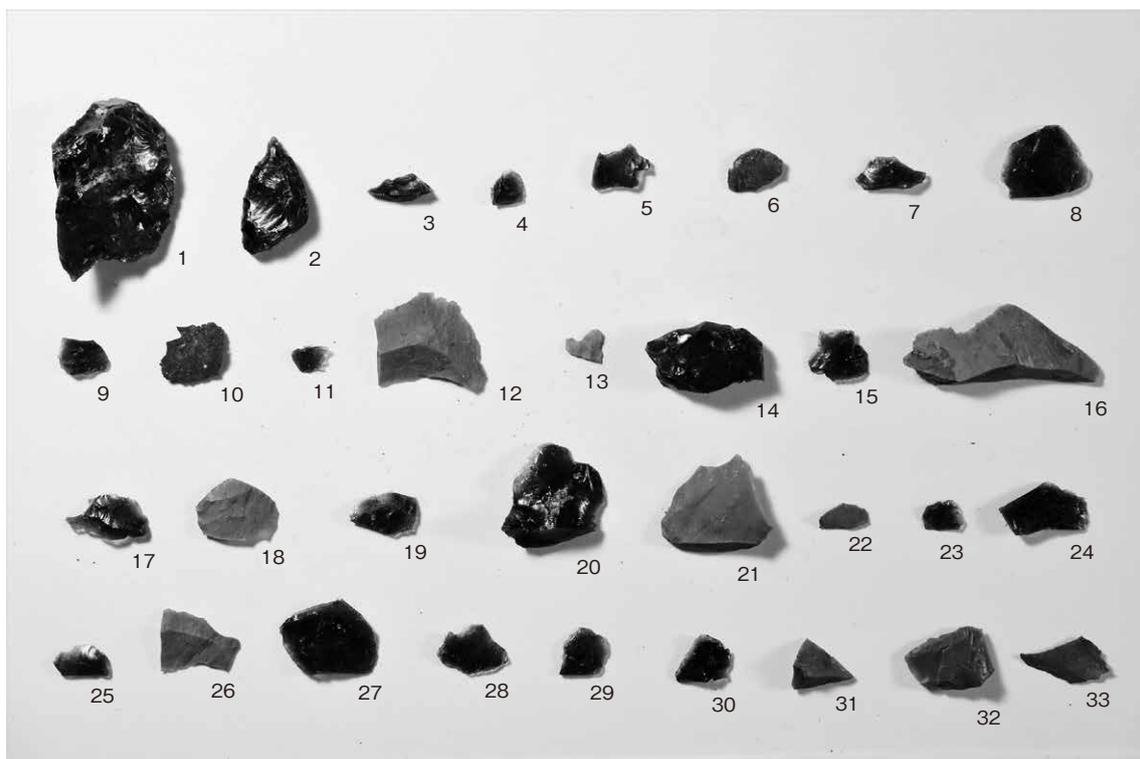


1P-2



10P-1

3区出土遺物



3区14P出土石器



13P-1

4区出土遺物



2P-1



2P-2



3P-1



2P-3



2P-4

5区出土遺物



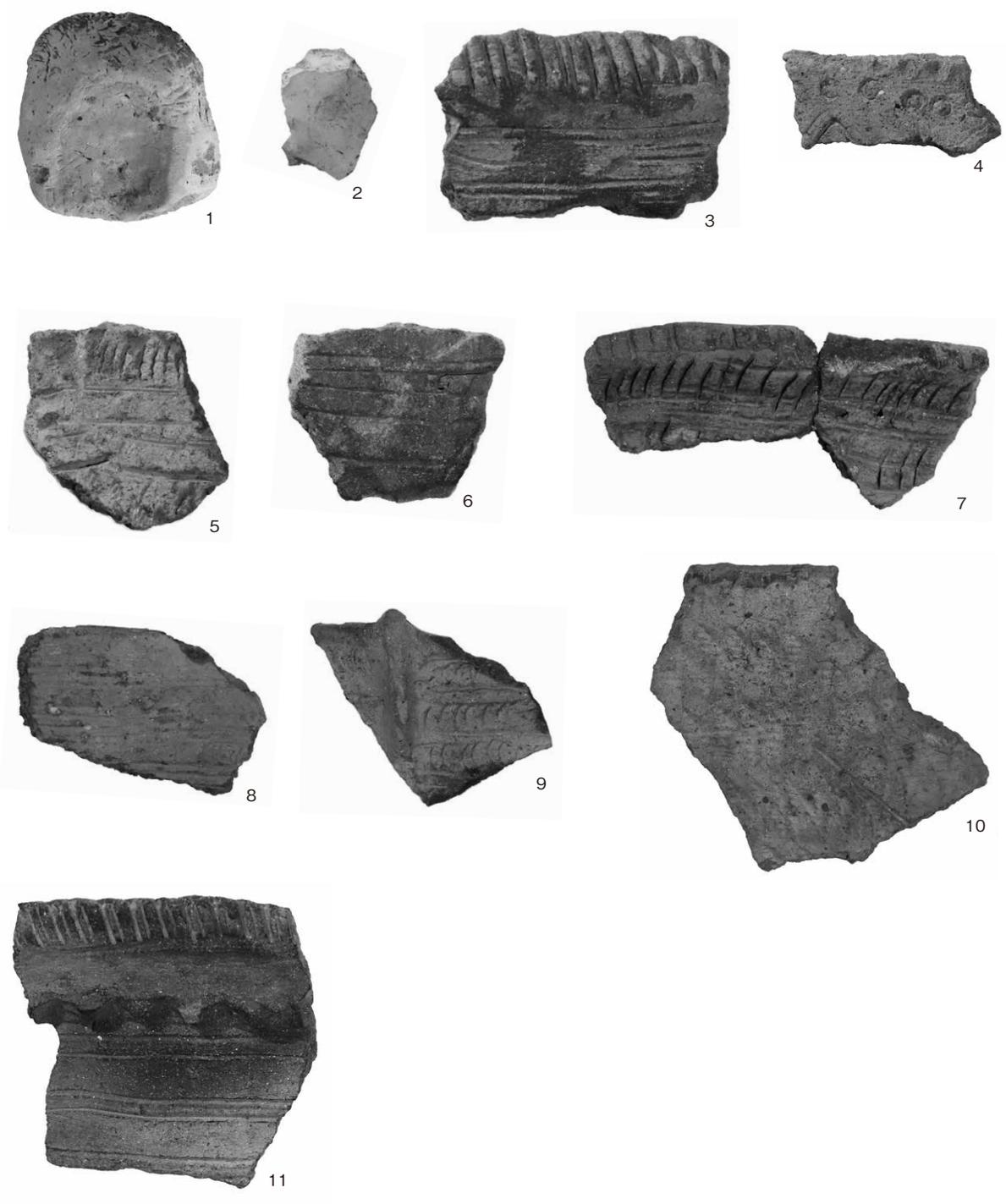
1P-1



1P-2

6区出土遺物

图版 7



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし ふたえぼりいせきえいちちてん							
書名	千葉県八千代市 二重堀遺跡h地点							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	多田康太, 宮下聡史							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047 (483) 1151代表							
発行年月日	令和3年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふたえぼりいせき 二重堀遺跡	かみこうやあざしんばやし 上高野字新林1208番 1,1207番2	12221	231	35度 72分 15秒	140度 13分 12秒	20200713 ～ 20201001	698	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二重堀遺跡	包蔵地	旧石器, 縄文, 奈良・平安	縄文時代土坑 66基	旧石器時代石器, 縄文土器,	
要約	調査において、縄文時代の土坑群を検出した。これまでの周辺の調査結果と合わせ、新川東の黒沢支谷南側を、早期から後期までの間断的に主な生活域として活動していたことが明らかになった。また、遺物の出土状況から、旧石器時代の遺構の存在も推測される。				

千葉県八千代市 二重堀遺跡h地点
—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 令和3年3月31日
編集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304
発行 株式会社オカムラホーム
印刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1

